京町家ステイ「暮らすよう泊まる」

東京カレンダー　2007年1月

STAYING
この宿、この部屋、この景色。
暮らすように泊まる
"通な"宿選び。

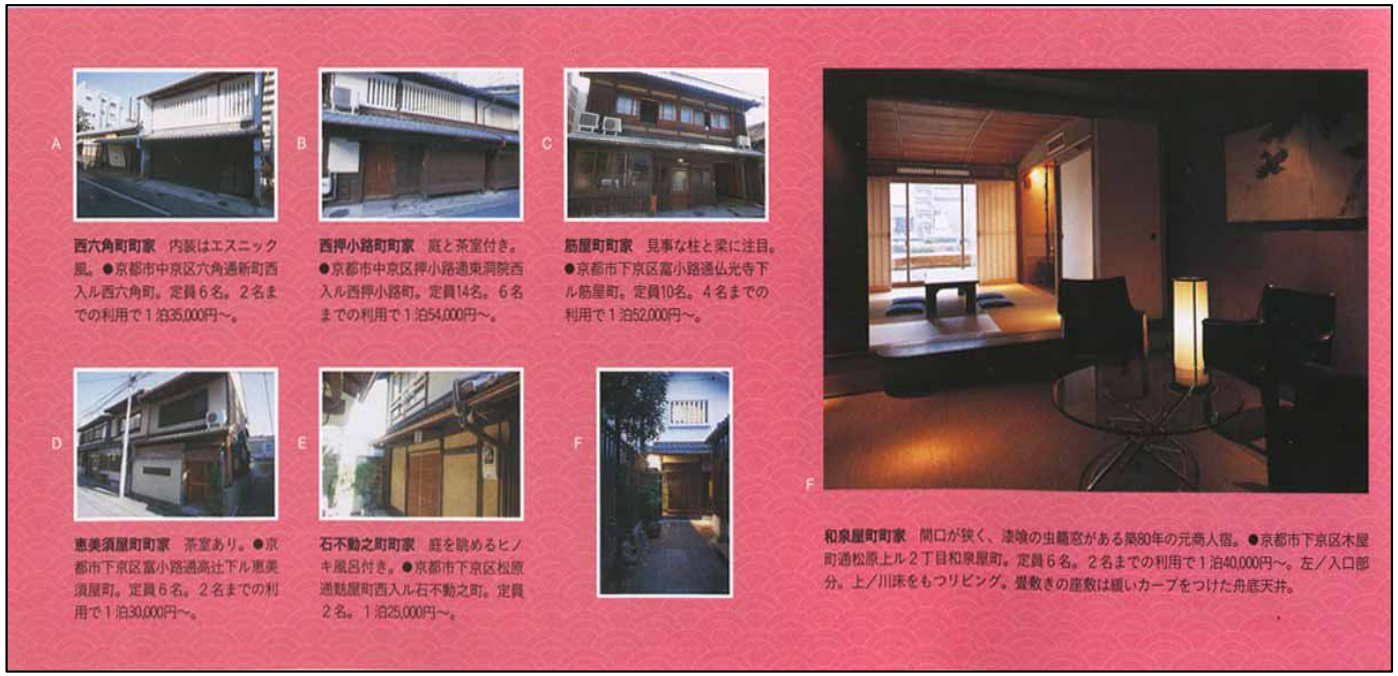
Weekly 町家「庵」
和泉屋町

鴨川沿いの町家で過ごす、スペシャルな京都時間。

しっとりと昔ながらの京風情を残す割烹や料理旅館が軒を連ねる木屋町通。その路地奥に佇む町家に、暮らすように泊まる……。そんな贅沢な滞在型の宿が誕生した。チェックイン時に鍵を受け取ればあとは自由。まるで京の我が別邸のような滞在気分を味わうことができる極上の空間である。丁寧にリノベートされた古い1軒家には、センスよく配置されたデザインチェアや骨董の調度品などが並ぶ。そして窓の外には水鳥の集う鴨川と秋色に染まる東山の景色……。大切な人と一緒に、ゆったりと過ごしたい特別な京都時間が、ここにある。

1. 極上の日常を忘れさせてくれる特等席。ほどよくモダンな調度品が、古い町家になじむ　2. 部屋から望む、鴨川と東山の景色は目のごちそう　3. 路地奥の1軒家。看板も目印もなく、まさに隠れ家風情　4. 小窓から坪庭を眺める檜風呂

京町家ステイ



A **西六角町町家**　内装はエスニック風。●京都市中京区六角通新町西入ル西六角町。定員6名。2名までの利用で1泊35,000円～。

B **西押小路町町家**　庭と茶室付き。●京都市中京区押小路通東洞院西入ル西押小路町。定員14名。6名までの利用で1泊54,000円～。

C **筋屋町町家**　見事な柱と梁に注目。●京都市下京区富小路通仏光寺下ル筋屋町。定員10名。4名までの利用で1泊52,000円～。

D **恵美須屋町町家**　茶室あり。●京都市下京区富小路通高辻下ル恵美須屋町。定員6名。2名までの利用で1泊30,000円～。

E **石不動之町町家**　庭を眺めるヒノキ風呂付き。●京都市下京区松原通魚屋町西入ル石不動之町。定員2名。1泊25,000円～。

F **和泉屋町町家**　間口が狭く、漆喰の虫籠窓がある築80年の元商人宿。●京都市下京区木屋町通松原上ル2丁目和泉屋町。定員6名。2名までの利用で1泊40,000円～。左／入口部分。上／川床をもつリビング。畳敷きの座敷は緩いカーブをつけた舟底天井。

どの町家も繁華街にほど近い場所にあり、近くを散策するだけで楽しめる。

2005年～06年リノベーション。庵（いおり）がプランニング。中京区から下京区にかけて6棟点在する町家をレンタルできる。立地条件が微妙に違うので、好みのタイプの町家を選んで宿泊できるシステム。●問合せ／庵オフィス☎075・352・0211。http://www.kyoto-machiya.com

2005年～06年 リノベーション

庵

京都／和泉屋町など

築70年超の町家で京都体験。

アメリカ人の東洋文化研究家、アレックス・カー氏らによってリノベーションされた京町家「庵」は宿ではなく、チェックインの際に契約書を交わすレンタルハウスである。1組1棟貸し切るスタイルで、仲居さんもおらず、食事も出なければ、門限もない。宿のお仕着せに飽きた人や外で食べ歩きしたい人、お忍びで旅行に来た人にうってつけだ。

物件は現在、京都市内に6軒。坪庭や茶室を備えた家、和にモダンエスニックをミックスした家など、さまざまなタイプがある。昨年7月にオープンした〈和泉屋町町家〉は鴨川沿いに面し、川床を備える。マリオ・ベリーニやジョージ・ナカシマの椅子に腰掛け、遠く東山を眺めれば、スーッと気持ちがほどけていく。

Casa　BRUTUS

2007年3月

京町家ステイ

町家に泊まる

下京区■町家ステイ庵 西六角町町家■まちやすていおり にしろっかくちょうまちや

典型的な町家を現代に再生。快適な空間に包まれる、得がたい体験ができる

(上) 1階の和室(6畳ふた間)から坪庭を眺める。左側には、町家特有の急勾配の隠し階段がある。(下) 2階も広々とした空間で、6畳の和室に天井の高いリビングが続く。質の高い古美術品がさりげなく置かれている。

玄関を入ってすぐの土間。左側の畳の間は前家(町家)の名残で、公だったスペース。畳が、坪庭のある私的な住まいになる。

京都では町家に泊まってみたい。千本格子の窓に、玄関を開けると土間が続き、おくどさん(竈)のあった通り庭の上は吹き抜けの天井、奥には坪庭。古く京の都に建てられた伝統的な家。そんな歴史ある町家に、「住むように」泊まってみたい。

そうした声に応えるべく、2003年、「町家ステイ庵」が誕生した。ただし、築百年前後の町家は、現代人にとって、必ずしも快適とはいいがたい。そこで、徹底したリノベーションを施し、まず基本的な住まいの条件(エアコン、風呂やトイレなど水回り)を整備した。

その上で、古美術品を飾り、現代感覚のテーブルや椅子を入れ、町家の雰囲気を壊さないようなインテリアを創りだした。あとはチャンとは言わず、パソコン用無線LANを配備した取捨選択に、建物の志が感じられもする。ちなみに、湯舟には、最高級の素材である檜を使用。ここまで凝って再生させた町家は、現在6軒。そのうち、夫婦向きの2軒(38ページ)を紹介したい。

まず、西六角町にある町家は、明治時代に建てられた2階建て。手入れの行き届いた室内は、とても気持ちのいい空間である。

町家ステイ庵の事業部長、川島志保さんは説明する。

「京都の伝統文化である町家を、現代の感覚で楽しんでいただきたいです。ただ、木造建築なので、用心のため自炊はご遠慮いただき、禁煙・骨董品に注意・怪我は自己責任の3点にも、注意していただいています」

自炊はできなくても、台所にはレンジ(またはオーブントースター)、電気ポット、冷蔵庫、食器類が常備されているから、簡単な朝食程度なら問題ないはず。京都ブランド「玉屋珈琲」のオーガニックコーヒー、「一保堂」の焙じ茶も、さりげなく棚に置いてある。すべてに心憎い演出がされているのだ。

京都の我が家。そんな思いで泊まることができる町家なのである。

↑通りから見ると、いかにも町家らしい千本格子に虫籠窓(2階)の佇まいである。

駱駝 2007年4・5月号

京町家ステイ

↑この1階の洋間と和室の先、鴨川べりには屋外に床が設えてあり、陽光を浴びて登録にもいい。床暖房なので冬も快適に過ごせ、階段の手すりには竹を使うなどインテリアにも凝る。→台所（右）と、特筆すべき桃の浴室（左）。たいへん贅沢な作りだ。京都の別宅として、おおいに活用したい。

町家スティ庵 地図2〜A3

●京都市下京区富小路通高辻上ル燈籠町144-5（事務所） ☎075-352-0211 チェックイン16時 アウト11時 銀行振込の前金制 http://www.kyoto-machiya.com

西六角町町家／地図2〜A2
1泊3万5000円〜（中）

和泉屋町町家／地図2〜B3
1泊4万円〜（中）

2階

1階

京都に残る町家を撮影

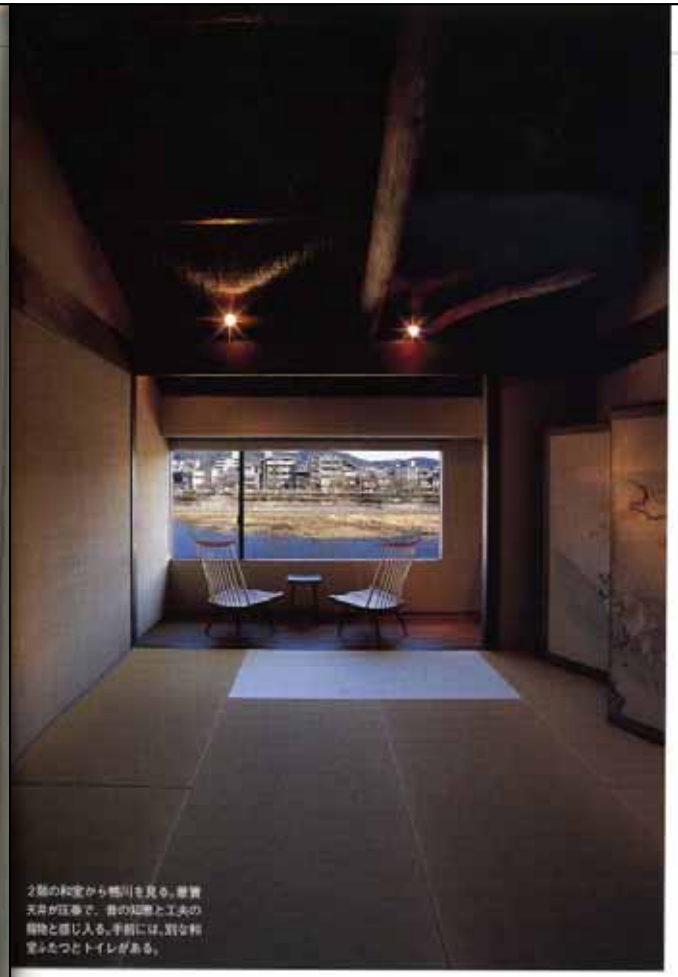
京都では町家ブームが続いているが、古い家すべてが町家というわけではない。京都在住の写真家・水野克比古さん（66歳）は語る。「町家とは、主に通りに面した職住一体の商家を指します。表に店の間があり、その上は住み込み店員の部屋。奥に入ると私的な住居になり、玄関棟、坪庭、台所、表座敷と続き、裏庭をへて倉庫或あるいは作業場という構造です。他に、棟続きの貸家建ちや、ろうじ長屋などの町家があります。それから、暖簾がかかって戸を開けている町家でも、一般の客が自由に入れない所も多いので、ひと声たずねてください」

↑写真集『京都町家の坪庭』など、京都のよさを撮影する水野さん。

行き来を済ませる（チェックアウト不可）。当日は、事務所か現地で鍵の受け渡しをし、その後は宿泊者の自由に。タオルやシーツの予備を置き、掃除にも入らないが、希望を伝えれば対応もしてくれる。自炊はできないので、スタッフに近くの食事処を聞いておくほうがいいだろう。

もっとも、ここ和泉屋町町家は料亭の並ぶ木屋町通りにあるし、仕出し料理を取ることもできるので、さほど不便はないはず。"古くて新しい町家"の宿泊も面白いに違いない。

※料金は時期により異なるので、詳しくはホームページを参照。



2階の和室から鴨川を見る。豪貴天井が圧巻で、昔の知恵と工夫の産物と感じ入る。手前には、別な和室ふたつとトイレがある。

■町家スティ庵

和泉屋町町家 ■ まちやすていおり いずみやちょうまちや

鴨川を眺める絶景の場所で徹底修復した築100年の宿を楽しむ

もう1軒の町家が、木屋町通りに面し、鴨川を借景にする和泉屋町町家だ。およそ100年前の商人宿を骨組みを残して徹底修復。その結果、たいへんモダンな宿に蘇った。

間口が狭く、奥行きの深い構造はそのまま生かし、1階の天井と壁は柿渋和紙張りにビルトインした空調機器、床暖房を装備して、イタリア・カッシーナ社の椅子やテーブル、日本の絵画や李朝家具、照明器具をバランスよく配置してある。2階の天井は元の家の豪貴天井を残し、十畳の貫感に屏風の風情がよく似合う。

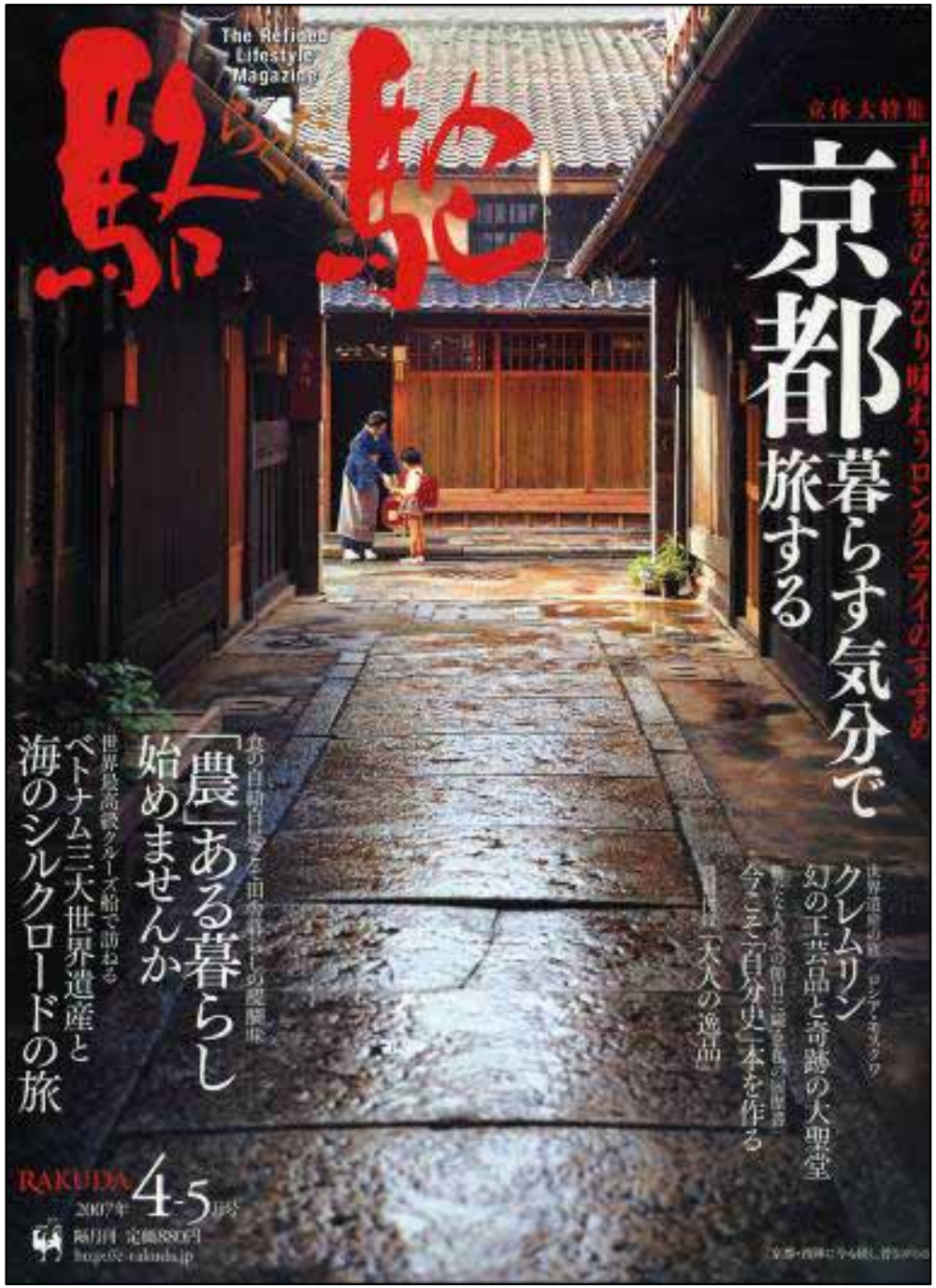
窓側の板の間は「なぐり床」（なぐりは大工技法の一種）で、ジョージ・ナカシマの木の椅子を置く。この椅子に座り、壁一面の窓から眺める鴨川の風景は、一幅の屏風絵とも思えるほどだ。

町家スティ庵の予約は、ホームページか電話で申し込み、宿泊前に振

↑和泉屋町町家の玄関。隣の家は住宅なので、まるで暮らす感覚が

駱駝 2007年4・5月号

京町家ステイ　「京都　暮らす気分で旅する」



駱駝　2007年4・5月号

京町家ステイ

癒しの空間

庵 京町家ステイ

京都での宿泊を考えるとき、多くの個性的なホテルが存在しているので、好みや用途に合わせて選ぶことができる。一方、一つの選択肢として、最近京町家を改装して作った宿泊施設が人気を得つつあるという。そんなサービスの一つに、株式会社 庵の京町家ステイがある。一泊滞在体験をしてみた。

京都中心部に6軒ある選択肢の中で、中京区西六角町の町家に宿泊した。間取りは1階が土間からの上がり口3畳を除いて、6畳2部屋をぶち抜いた12畳。それにヒノキのお風呂とトイレがあり、火気厳禁のため炊事はできないがパンとコーヒーの朝食ぐらいは作れる台所も付いている。そして何よりも町家らしいのは、裏側に坪庭がある。2階は通り側にソファーを配した広いリビング、裏側は6畳の寝室という構成だ。

いつもコンクリートに囲まれて暮らしている者としては、木と畳の空間に心が安らぐ気がする。調度品は和というよりは、アジアンテイストだ。何よりも良いのは坪庭で、宿泊した夜は雨模様だったため、塀越し雨に濡れた草木や庭石が朝日に清々しく輝いていた。

朝起きて玄関の引き戸を開け外に出ると、出勤するOLや自宅前の道を掃除する近所の人に、「おはよう」と思わず声をかけたくなる。そんな京都に住んでいる錯覚に陥るのも、町家滞在の楽しみだろう。

Relaxing space

Iori Kyoto *Machiya*

When thinking about accommodation in Kyoto, there are many different types of hotels in the city, so you can choose according to your preference and purpose. One of the options that has become increasingly popular recently is to stay at a renovated Kyoto *machiya* (townhouse). One company that operates this service is Iori Co. I decided to experience a night's stay in a *machiya*.

There are six *machiya* that have been renovated as accommodation facilities in central Kyoto. The one that I chose was situated in Nishirokkaku-cho in Nakagyo-ku. On the first floor, excluding a three-mat area that you enter from the earthen floor, two six-mat rooms had been turned into a large 12-mat room. There was also a cypress bath, a toilet, and a kitchen where, although you cannot cook because of the strict ban on fire, a simple breakfast of bread and coffee can be made. And then at the back, as is typical of a *machiya*, there was a courtyard garden. On the second floor there was a large living room with sofas and, at the back, a six-mat bedroom.

As someone who always lives surrounded by concrete, the wood and tatami spaces seemed soothing. The furnishings were more Asian-like than Japanese. Without a doubt, though, the best part was the courtyard garden. On the night that I stayed, it looked like rain, and indeed the next morning the plants and stones in the garden, still covered in raindrops, glistened refreshingly in the morning sun.

When I opened the entrance door and stepped outside, I felt like calling out "Good morning!" to the office ladies going to work and the local residents cleaning up in front of their houses. One of the pleasures of staying in a *machiya* is that it gives you the illusion of actually living in Kyoto. ■

株式会社 庵
Iori Co.
URL: www.kyoto-machiya.com
☎: 075-352-0211
Fax: 075-352-0213

IHCSA Café 国際交流協会発行　2007年夏

京町家ステイ　「ニッポン観光2007」

ガイコクジンとニッポン観光。

●中京区／京都

VOL.1

日本家屋の贅沢さを知らないのは日本人だけです。

BRUTUS　2007年8月

京町家ステイ

Grazia　2007年8月

京町家ステイ

Grazia　2007年8月

京町家ステイ

Grazia　2007年8月

京町家ステイ

お料理も一つ一つこだわりがあって、見事でした

貴船 ひろや

京都市左京区 桜馬貴船町56 ☎075-741-2401 営11:00〜19:30 川床シーズン（6〜9月）は無休 http://www.kibune-hiroya.com MAP・H

庭を望む縁側にいると、最高に気持ちいいです

町家ステイ 庵

京都市下京区富小路通高辻上ル 猪屋町144-6 ☎075-352-0211 営10:00〜19:00 無休 http://www.kyoto-machiya.com ※宿泊申し込みはホームページから MAP・B

素敵な店内を見るだけでも、訪れる価値あり

宮脇賣扇庵

京都市中京区六角通富小路東大黒町80 ☎075-221-0181 営9:00〜18:00 無休 MAP・A

こんな部屋に住むのが私の理想！

徂徠

京都市上京区丸太町通河原町西入信富町325-4 ☎075-213-2220 営10:00〜19:00 休木 MAP・A

石田さんがご紹介
今回訪れたお気に入りの店

ちょっととぼけたお菓子がかわいい

松彌

京都市左京区一乗寺弘殿町10 ☎075-711-5919 営10:00〜22:00 無休 http://www.keibunsha-books.com MAP・D

本当にバイトをしたいくらい好きな場所です（笑）

恵文社一乗寺店

京都市中京区新烏丸通二条上ル ☎075-231-2743 営10:00〜18:00 休月 MAP・A

伝統とモダンデザインの組み合わせが絶妙

SHINA

京都市中京区富町通三条下ル ☎075-257-5567 営11:00〜19:00 不定休 MAP・A

ここの甘味は豊かで澄んだ味がします！

かさぎ屋

京都市東山区高台寺 桝屋町349 ☎075-561-9562 営11:00〜18:00 休火 MAP・I

「わ」、気持ちいい！

京 都の暮らしは季節を受け入れ、楽しむ知恵が本当に豊か。町家に1年住むと、四季折々の情緒を肌で感じることができるそう。うーん心が揺れますね。できることなら実現させたい……。

松彌

Grazia 2007年8月

京町家ステイ

木屋町・鴨川へ

夏の京都暮らしは鴨川沿いの邸宅で

1 中心地へすぐの好ロケーション
2 まるで床席。鴨川の眺めをふたり占め
3 京都のうまいもんでおウチごはん

看板は、ない。その場所を知ることが許されるのはゲストだけ。閉ざされた門を開けて、石畳のアプローチを奥へと進む。お香の香りに包まれた玄関。そして格子のシルエットが美しい障子を開けると……そこは鴨川だ。ドラマティックに流れる鴨川の景色は、京都暮らしの始まりを強く心に印象付けてくれる。結縁に入ったあのようなこの景色を眺めていると、ゆったりと動き出る京都計画が野望に思えてくる。なにもせずにただぼーっとしたい。そんな気持ち。ここはさしずめ、和のリゾート空間といったところだろうか。

町家という枠ではあるが、居心地はホテルクラス。1階はカフェラウンジとテラス付きの座敷。2階は鴨川が望める座敷とベッドルーム。そして客間の座敷の計3部屋という内容。グループでシェアするのも手だが、やはりこの空間には"ふたりきり"が似合う。

宿からは中心地である四条河原町に先は町、祇園へもすぐ。目当ての店でランチやディナーもいいが、例えば京都の台所である錦市場で京野菜を使ったばんざいや旬の鯖寿司を購入し、鴨川を眺めながらお酒と共にいただく……というのもこれぞ大人の贅沢。しっぽりとふたりきりで楽しめる川床が、さらに旅を盛り上げてくれるだろう。

庵 和京屋町

FRaU 2007年8月

京町家ステイ

OZmagazine　2007年10月

京町家ステイ

Going to my paradise :: vol.74

PM6:00
歩いてすぐの錦市場に
散歩がてら
夕ごはんの買い物に

PM7:30
京都のおばんざいでのんびり晩ごはん

PM8:30
静寂の音が聞こえてきそうな
秋の夜長を感じる

PM5:00
ずっと読めなかったあの本
西陽射す縁側で
ゆっくり読んでみよう

PM10:30
どこに寝るか、迷うのも楽しい！

町家に泊まる

なにもしないがこんなに贅沢
町家に泊まって過ごす2日間

ホテルではなく、町家に泊まる。そこには、いつもよりもゆったりとした時が流れるような、特別な時間がある。観光ではなく、暮らしを楽しむ。次の京都は、こんな楽しみ方もいい。

1日目

PM4:00
京都の街で買ったお花を活けて
自分の家に暮らすみたいに

PM3:00
まずはお茶を一服
町家暮らしの1泊2日がスタート

町家の中で
美意識見つけた！

OZmagazine 2007年10月

京町家ステイ

Going to my paradise vol.74

彼はなぜ、町家を再生するのか？
青い瞳の奥に秘められた美意識とは？

日本の文化の素晴らしさをこの町家で感じてほしい

東洋文化研究者であり、骨董商、そして京都において画期的な、町家ステイという新たな宿泊性を提示した「庵」のオーナーでもあるアレックス・カー氏。彼はなぜ町家を再生しようと思ったのだろうか？

「私は子供の頃から日本に住んでいたので、自然に日本の文化の中で育ちました。しかし今、日本は急速にその姿を変えています。私が子供の頃好きだったものが、今となっては大変貴重なものになっているのに気づいたんです。だからそれを守りたいと思いました」

「庵」は、変わり行く京都へのアンチテーゼだ。そして、日本人ではない彼が、それを表現していることに、強烈なメッセージ性がみてとれる。

「今、京都の街は病気です。古いものをどんどん壊すという精神が蔓延している。そのために、京都の街は、特にこの10年で致命的なダメージを受けました。寺社仏閣、重要文化財を守ることだけが、京都を守ることではない。そういった大きなことよりも、庶民の生活のほうを受け継がれてきたものを守らなくてはいけない。そこで、自分にできることを考え、日本人の間だけでもこの施設を造ったんです」

「庵」に泊まるということは、彼のメッセージに触れることだ。彼はここで、宿泊者にどんなことを感じてほしいのだろうか？

「町家は、家そのものに、生活の息吹が詰まっています。例えば、井戸、勝手、ふすま。すべて、この空間感覚は日本家屋の独特のものなのです。それから素材、木、塗壁、瓦、そういうものに触れることによって、なにかを感じてほしいんです。京都という歴史ある街を観光し、神社仏閣を回ることもとてもスペシャルな経験です。でもそのあとでコンクリートのホテルの部屋に戻ると、観光地でものが、ある意味では嘘に思えてきてしまう。けど、このような町家に戻ってくることにより、観光地で見た歴史を受け継ぐものが、よりリアルに感じられるんです」

加えて彼は、「庵」は、単なる懐古主義ではなく、むしろとても現代の生活のスタイルに合った家だという。

「多くの人にとって、古い家に住むことは、非文明的という先入観がある。そして残念ながら、古い家は古臭そうなんです。私だって現代人としてそうした古いままの町家に住みたいか？といったら答えはノーです。しかしここは、古いもののよさを残しながら、水回り、冷暖房、ネット環境、すべてを考慮して、現代人も快適に生活できるスペースにしているんです。これはぜひ見てほしいし、経験してほしい。感じないことってないかと。アジア各地を回り、文化研究を続けるアレックス氏にとって、アジアの中でも日本の文化の美しさ、かけがえのなさは群を抜いているという。

「盆栽や陶芸、瓦、日本の家の考え方のルーツは中国です。しかし中国にはこの美意識で、それらを洗練させてきました。例えば盆栽は中国では木ですが、日本では紙をうまく使います。それから行灯、とても美しいですね。日本の家には独特の間がある。その間によって、心が休められていくようにできています。なにげなく降った雨の部屋の向こうに、井戸の緑が見える。そのようなこだわりさに、ロマンがあるんです。この繊細さが、日本人の美しい精神性なんです。そういった美意識を、ここで感じてもらえたら、と思います」

PROFILE
アレックス・カー
東洋文化研究者。日本の美しい伝統から民間を再生するために日本中を奔走。骨董に深い目利きの時間に没頭中。

庵 祇屋町
Data
住所 [illegible]
[illegible]
http://www.kyoto-machiya.com

ほかにもこんな泊まれる町家

庵 石平町北町
料金1泊1棟25000円～（3名用）
京都の町を知るにはまず、ちょっと入れないような場所にある「隠れ家」的高級感の町家。庵の町家の中でもいちばんボロ、格子戸と坪の北欧が時間の美しい時間を送っている。

庵 吉祥院町
料金1泊1棟30000円～（2～8名向き）
昭和初期の町家。伝統的の家屋は、最も古く、家屋からは伝統的に5つ伝統しと言える伝統が集積。これもまったくしているが、本人の町家の雰囲気としても深くも深い時代。

庵 西六角町
料金1泊1棟35000円～（2～8名向き）
清水のリビングから、東が見えるダイナミックな空間に。そのにマッチしたオリエンタルなインテリアが特徴的。伝統的から新すぎ光と影がとてもドラマチックな町家。

庵 西洞小路町
料金1泊1棟34000円～（4～14名向き）
大正時代の建造物といわれ、今時っぽい町家としては間口の大きい。金箔張と格子戸の優しい相乗。庵家の最新を飾す。京都の重々しを感じられる時。

庵 祇園町
料金1泊1棟40000円～（3～6名向き）
格子戸を開けると、高い吹抜の空間。内玄関の格子戸を開けると、奥の部屋の大きな窓越しに、緑の中庭に7坪は、本物の和室即席。そして、新しいトイレ付きのキッチン。

※詳細は庵にて確認
http://www.kyoto-machiya.com

AM7:00
いつもより早く目覚めたらぼーっとコーヒータイム
目が覚めたら、宿が用意してくれているコーヒーを入れて、1日を始める準備を。日常の慌ただしい朝とは対照にある時間が、新しい朝が来ることの喜びを再確認させてくれる

AM7:30
朝の汚されていない澄んだ空気の中を散歩
庵 祇園町からは、観光寺がすぐそこ。まだ人もまばらな路地を抜け、朝の散歩へ。骨董品の店のショーウィンドーでひとなたぼっこする、なんとも京都らしい大や、地たちの香気な姿など、日常の風景に出会える

門前通りに、小さなお社を発見！

仏光寺の石鹿を門構え。朝の清はえもきはら

神社の手水鉢で、水を飲む鳩たちものんびり

朝の澄んだ光が印象に残る木の格子がきれい

普通の家も、とてもきれいに手入れされている

この細い路地はいったいどこに続くのかな？

住所が書かれた看板もちゃとかわいい

あの夜見を回復しないはこうに流れだけました。

高価そうな店の商品の陶でイッちこえを発見！　そこに座っていてあ正直！

AM10:00
チェックアウト1泊2日で驚くほど心が穏やかに
家によって、心が休められ、癒される。ほかではなかなか体験できないこの感覚は、町家ステイならでは。チェックアウトして街に出る時には、昨日よりもなんだか丁寧に1日を過ごしたくなる、そんな心持ちにさせるものがあるはずだ

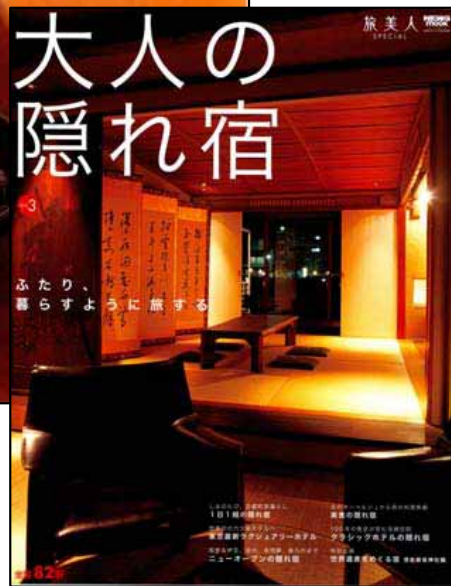
AM9:30
早起きするとチェックアウトまでの時間ものんびり
散歩から帰って簡単な朝食を済ませたら、チェックアウトまでの時間ものんびり過ごそう。庵 祇園町には、さまざまなタイプの部屋があるので、存分に味わって。こんなソファの席も素敵

OZmagazine　2007年10月

京町家ステイ

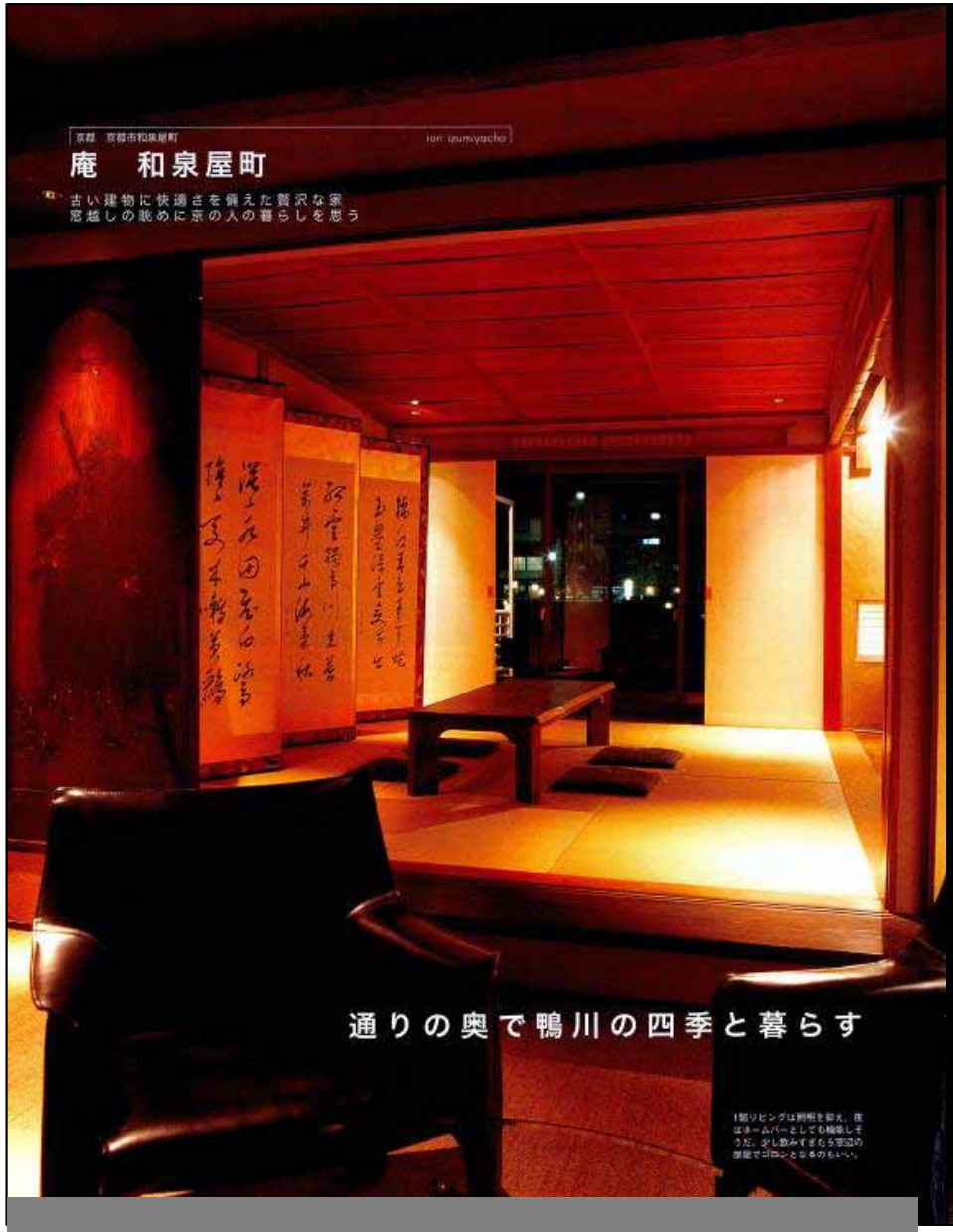
Vingtaine　2007年12月

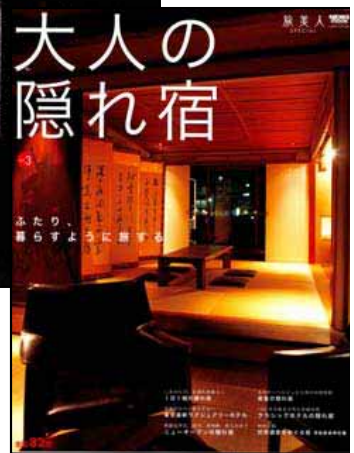
京町家ステイ　「町家　ふたり　暮らし」



大人の隠れ宿　2008年3月

京町家ステイ　「町家　ふたり　暮らし」





大人の隠れ宿　2008年3月

京町家ステイ　「町家　ふたり　暮らし」

2階の1室からは鴨川を見下ろせる。ガラス戸越しには、東の枝垂れの赤い川岡通の雑音が届かず、無声映画でも観ているような錯覚に陥る。畳部屋で飲みながら読書をしたくなるような部屋だ。

1家は隅の隠岸のように奥へと長い。手前にはミニキッチンもあり、材料を温めたり切ったりの簡単な料理作業が出来る。裏奥の部屋から差す日の光が印象に残る。2浴室は檜風呂がひとつある。木肌は、やはりぬくもりがある。3高所に明るく古物趣味もあるアレックス氏の仕立てなのか、洗面の壁には白い染め付けがあった。4階は地元の人が暮らしている。お隣さんがいる清宿になる。

いおり いずみやちょう

所在地◎京都府京都市下京区利兵衛町
電話◎075-352-0211
客室◎一棟貸し（2名～6名宿泊可能）　in 16時～18時30分、Out 11時
料金◎2名利用の場合は平日40000円～60000円、休日及50000円～100000円（家由より振り込みによる前金制）※料金は宿泊人数により異なる
交通◎阪急河原町駅から徒歩10分。車は名神高速道路京都南ICから国道1号を北へ、川端通経由約30分
駐車◎可能！
http://www.kyoto-machiya.com/

なりかねない。彼の人の自ちなく、好きに過ごせるのは、思いのほか心地よく、のんびり過せる。

さて、ここでどうやって暮らそうか。そんな思いになったら、街へ出てみるのも悪くはない。今夜の食事、明日の朝食、おやつの準備もしなければならない。けれど、この街に居ってはそれを決める時間も楽しい。料理屋も菓子屋も、全国に名を轟かせる名店が揃っている。京風やおばんざいを買い揃え、京都の日常の食卓にてみるというのも贅し切り宿の醍醐味だ。

家を出たすぐ近くには松原橋が架かる。とりあえず、そこで京都の空気を吸いながらふたりで家を眺る。目の前の鴨川には自然、確かにここは京都である。

繁華街を南北に走る烏丸町通は、四条通を境に様相が一変する。四条通から北はネオンが灯る夜の街、歴のある南はそろそろ歩きを楽しみたくなるような趣がある。高瀬川のせせらぎを聞きながら歩道のぼんぼりを、一つ二つと数えながら宿へ向うのは春の夜がいい。緑に植わるまだ若いはずの桜が光に映しだされ、思わぬ艶姿を見せてくれるのだ。

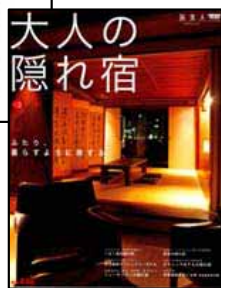
町家に手を入れ、一棟貸しの宿にしている「町」。その一つである和泉屋町は、木屋町通に面した門を抜けた奥にある。住人しか足を踏み入れないその向こうへ行けるのは、家の間であっても、京都で暮らしているような気分になれる。

和泉屋町は格子戸に白壁の町家で、建ってから七〇～八〇年が過ぎている。内部に当時の面影を残していないのは、奥の設立者であり会長を務めるアレックス・カー氏（P30参照）が、滞在空間に快適さを求めたからだ。

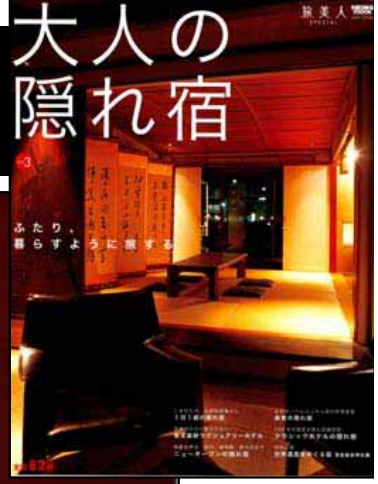
2階建ての家はどこも清潔に整えられ、1階のリビングには カッシーナの椅子、足元には床暖房を敷いている。衝立や家具は、古物に感るいアレックス氏の趣味を取り入れた年代物。それぞれで重い印象にならないのは、窓の向こうに鴨川の眺めが広がるからだろう。

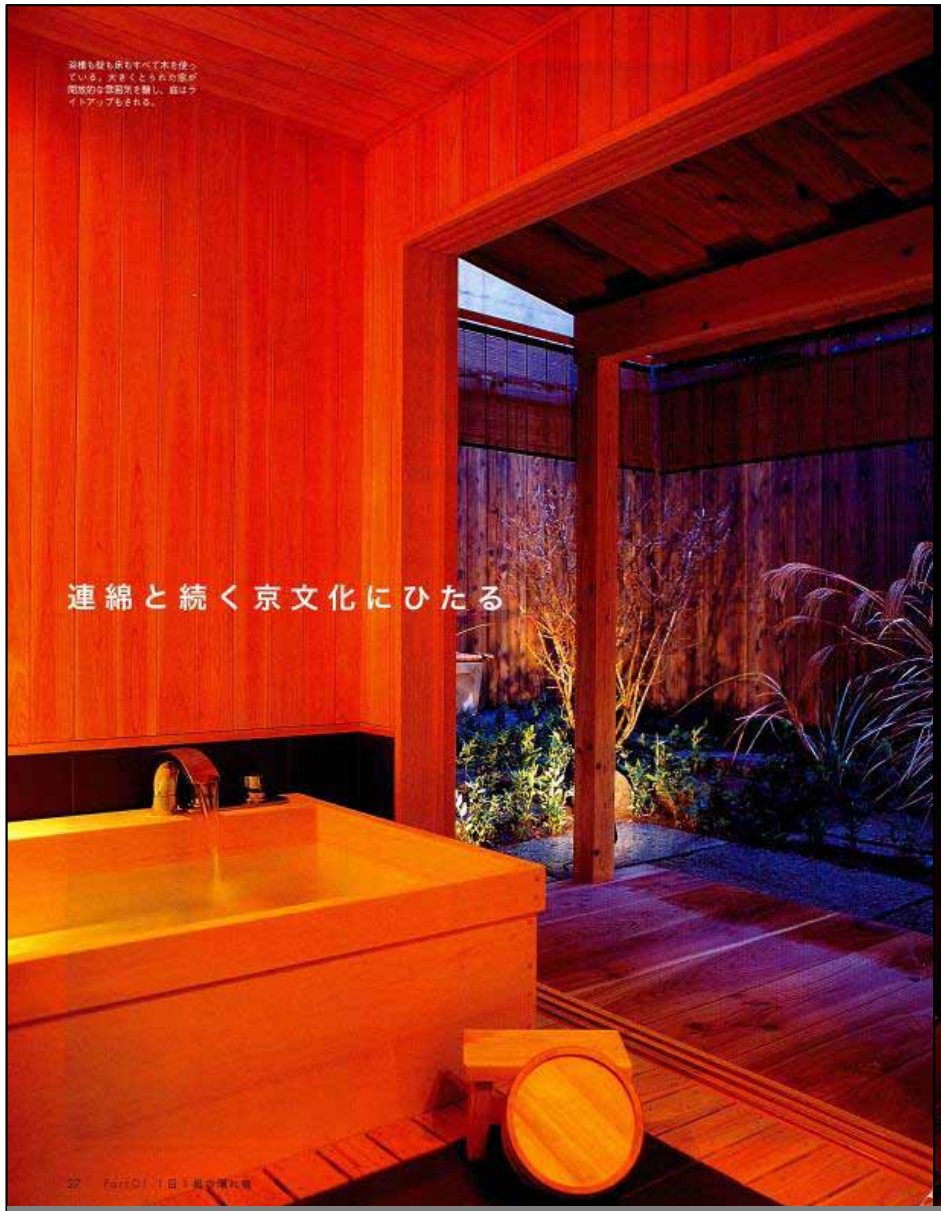
鴨川に面した部屋は、川向こうの車の流れや、自転車で走る人に気を取られて、思わぬ時間が流れてしまったということに

大人の隠れ宿　2008年3月



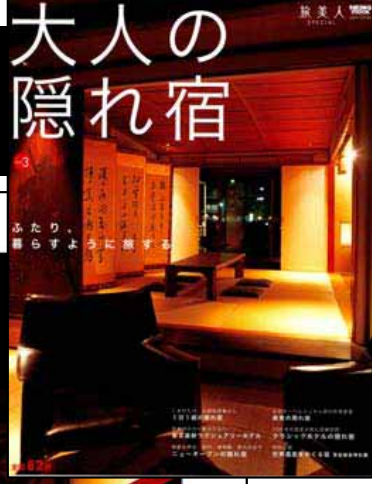
京町家ステイ　「町家　ふたり　暮らし」





大人の隠れ宿　2008年3月

京町家ステイ　「町家　ふたり　暮らし」



1リビングの壁に掛かる大きな額には、乾坤一擲（けんこんいってき）と書かれている。自分の運命をかけ、のるかそるかの大勝負を意味する言葉で、迫力の筆致に圧倒される。奥のアレックス・カー氏も筆を添えている。2床の間に季節の花を飾る。京都の家に床の間は欠かせない。3玄関の広い三和土には、外からもよく見える木製の大扉をディスプレイしている。

ひと口に祇園と言っても、どのあたりを指すのかで、その様子は全く違ってくる。お座敷へ向かう芸舞妓を見かけるのは花見小路通界隈、少し気の張る店が軒を連ねる新門前通、古門前通は、骨董街で通っている。

その新門前通に2007年の12月、新しく「庵」の店が誕生した。もとの建物は明治期の建築という説もあり、近年は、祇園でも有名な「花岩」が花屋を営んでいた。時代を経て、朽ちた建物は大幅な改修工事をせざるを得なかったが、町家建築の特徴である吹き抜け部分と天窓は、当時のままを留めている。

間口の広い玄関から中へ進むと、天井から光が降り注ぐ、ここはかつての通り庭で、おくどさんと呼ぶキッチンがあった場所だ。京町家で暮らす人は、壁に囲まれ暗くなりがちな家に、明りと風を取り込む工夫に余念がなかった。ここで営まれていた暮らしに想いを馳せると、町家の見方もまた違ってくる。

家の奥には何とも開放的なお風呂がある。ゆったりと広い浴室に、ふたりで優に入れる檜の浴槽、ガラス戸の向こうには庭の眺めが広がる。疲れに優しいレインシャワーも心地良い。

夜の食事は、京の仕出し文化に触れてみるのもいいだろう。京都には、大切な人は家でもてなすという言くからの文化がある。招いた客に手料理をふるまうことはなく、料理屋が届ける仕出しを用意するのが通例だ。それは、お座敷遊びの場でも同じで、お茶屋にはいくつもの料理屋が仕出しを運んでいる。

「庵」新門前通から多いですぐにある「菱岩」は仕出しが専門。料理や花街に明るいなら、一度は聞いた名前だろう。新門前では、ここの懐石料理を注文できる。「菱岩」が懐石料理を届けるのはお茶屋が中心なので、これはちょっとしたトピックスだ。美味しい料理に会話もはずみ、そろそろお腹が空くころ、次の料理が届くタイミングの良さに、花街で磨かれた法練を感じる。

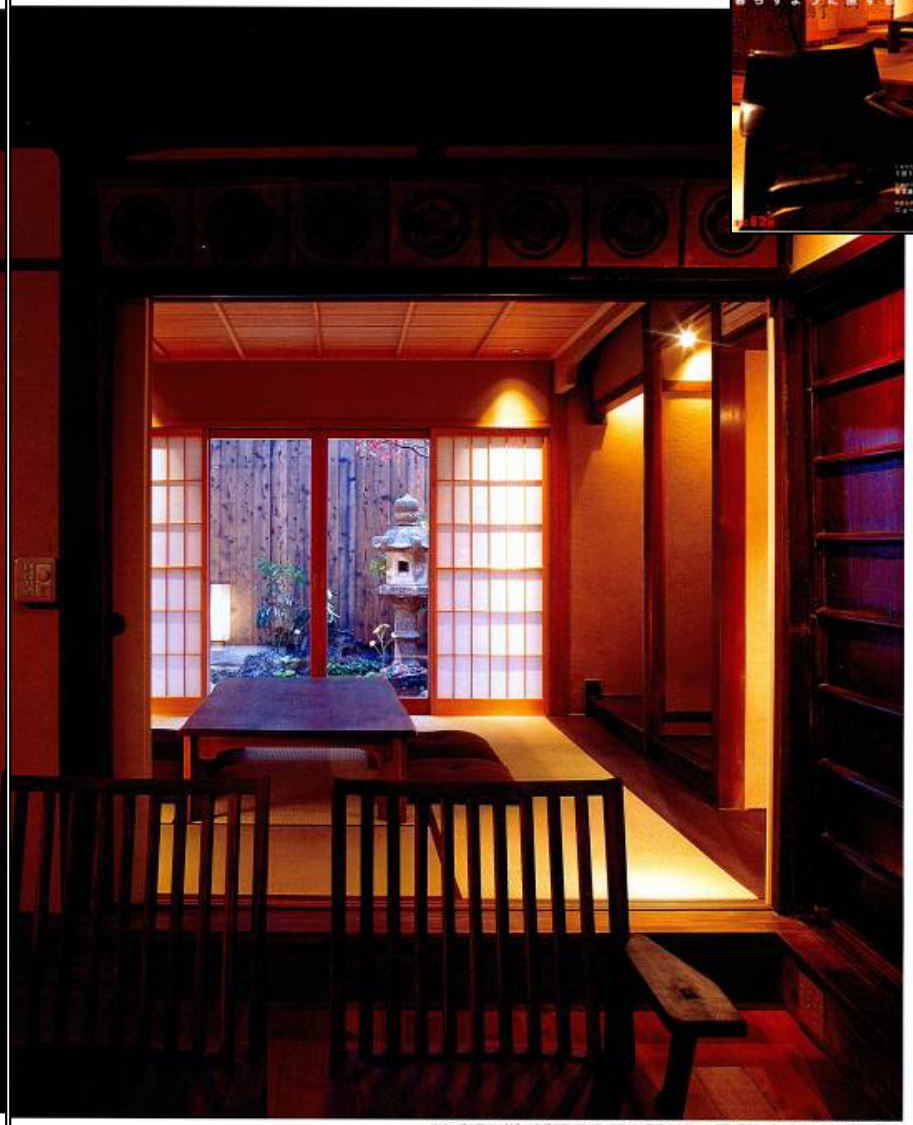
贅沢な夕食に気分が弾んだら、そのまま街へ繰り出すのもいい。少しくらい遅くなっても構わない。鍵を手にしているふたりには、今、家があるのだから。

店の名が入った自転車で料理を運ぶ「菱岩」。料理は1万3000円～で事前に予約が必要。電話075-561-0413。

4-5「菱岩」の冬の料理には蟹が出ることもある。京懐石の流れの通り、最初は四付や先付が運ばれお酒と一緒に楽しむ。6茶菓や湯飲みの用意はあるので、気に入った店のお菓子を買っておやつの時間を楽しみたい。この日は近くの「月餅家直正」のわらび餅を選んでみた。極粒がスッと入るやわらかさは感動もの。電話075-231-0175。

いおり しんもんぜん

所在地◎京都府京都市東山区新門前通
電話◎075-352-0211
客室◎一棟貸し（2名～6名宿泊可能）　In:16時～18時30分、Out:11時
料金◎2名利用の場合は平日50000円～90000円、休前日60000円～100000円（食事より・長り込みによる前金制）※料金は宿泊人数により異なる
交通◎京阪電鉄三条駅から徒歩5分。車は名神高速道路京都東ICから三条通を西へ、約30分
浴場◎館内に半露天風呂1
http://www.kyoto-machiya.com/



リビングの壁には絵入りの提灯箱が並び、ここにも町家ならではの意匠が残る。奥の和室は夕食の舞台に最適。

大人の隠れ宿　2008年3月

京町家ステイ　「ふたり、暮らすように旅する」

京都は世界の宝物だと思ってるんだ。
古い建物は神秘的で、どこか不完全な美があるね。

Q 日本に興味をもったのはいつ頃ですか

A 父親の仕事の関係で、子供のころは横浜に住んでいたんだ。その時はまだ小さかったから、日本のこともよくわかっていなかったけど、母の友人の家で見た襖や建具には興味を持ったね。古いお屋敷だったから、廊下や柱も黒光りしていて神秘的だった。襖一枚で部屋の大きさが変化する間取りも、印象に残ったよ。だけど、僕をもっとも惹きつけたのは、学生時代の旅で訪れた徳島県の祖谷だね。

Q どんな場所だったのですか

A そびえ立つ山に、茅葺きの家がポツポツとあるんだよ。それは、今までに見たことがないほど神秘的な光景で、まるで中国の山水画の世界なんだよ。見た瞬間からたまらなく惹かれてね、それから何度も祖谷へ行ったんだ。そうこうしているうちに、ここにある古い空き家なら、学生の僕でも買えるんじゃないかと思うようになって、家を探して買って、住めるように改修をしたんだ。これが古い家を直して使う、始めての経験になったね。

Q 古民家の魅力はどこにあると思われますか

A 古い建物には、何か不完全な美があるんだよ。木に近寄って見ると、そこにノミ跡が残っていたりする。もっと削れるものをその状態で留めておくことには、意味が込められているようにも感じるんだ。それと建具に残る傷にも、神秘的なものを感じるね。だけどね、その家がいくらいいからって、家だけをどこか別の場所へ移築しても、全く意味のないことなんだよ。その土地の持ってる空間気と一緒になって、初めて魅力を感じるんだよね。

Q 京町家の修復を始めたのはなぜですか

A 祖谷での経験を通じて、僕はいろんなことを考えたし、それをまとめた著書「美しき日本の残像」をきっかけに、白洲正子さんや司馬遼太郎さんとお会いできる機会も得たんだ。彼らからは本当にいろんなことを学ばせてもらったし、今でもそうだけど、著書を読んでくれた読者からは、自分たちの町が壊れていくことに対する憂いの声も寄せられた。僕はその時、京都に住んでいて、ふと町を見渡すと、町家がどんどん壊れていっているんだよ。それを見て、ちょっと待ってよって感じだった。だって、京都は世界の宝なんだよ。町家は、そこにある大切なものなんだよ。こんないい町はないと僕は思っているんだ。古い建物だっていっぱい残っているし、文化も根づいている。だけど、地元の人は、その良さになかなか気付かないのかもしれないね。僕から見たら、組天に扱っているように見えたんだよ。それで、仕事仲間と一緒に町家を守ろうという話になって、「庵」を始めたんだよ。

Q 町家はどうして壊されると思いますか

A 一つには維持の難しさだと思う。町家はそのままの状態で保つのも、直すのも相当大変だからね。それともう一つは、現代の生活に合っていない不便さだよ。現代人が、生活の場に快適さを求めるのは自然なことだから、町家が快適でなければ、壊されるのは仕方がないことなんだよ。だから残していくには、欧米ではすでに定着している、リサイクルの発想が必要になってくるんだ。地元の人には、その考えがまだまだ浸透していないだけなんだと思う。

Q 再生すると、もとの町家の良さが損なわれませんか

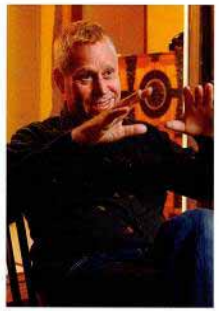
A そう考える人も確かにいるね。僕も、その気持ちはよくわかるんだ。だけど、古くて住めなくなった町家は、そのままではどうしようもないということも、理解しないといけないと思うよ。古くて住めなくなった、じゃあ壊しましょうじゃ駄目だと思うんだ。わかって欲しいのは、リサイクルは町家の破壊ではないということ、むしろその逆で、その建物が持っていた良さを引きだして強調して、現代でも使えるように新たに生まれ変わらせるということなんだ。その時に大事なのが、直す側がその家に愛情を持っているかどうかなんだよ。僕は、すべての町家をリスペクトしているよ。改修する時は、何度も足を運んで、建物の声を聞くんだよ。

Q なぜ、宿にされたのですか

A 町家には、この町の暮らしや文化が残っていると思うんだよ。例えば、新しく建てた「庵」の新門前（P.26参照）。ここは、随分傷んでいたんだけど、火袋という吹き抜け部分は残っていたんだ。そこに差すスカイライトはとてもきれいで、見上げた梁も桁も美しかった。午前中に行ってごらんよ、本当に気持ちがいいから。昔はキッチンだった場所で、陽の光を感じながら料理していたんだね。キッチンだから、天窓には換気の意味もあった。それからリビングに変えた板間には、提灯箱も残っている。提灯箱には絵がある、それから絵馬もあるんだけど、一つの箱は絵馬りのそれがめくれていて、その下にある前の住人の絵が見えていた（笑）。これも、昔の暮らしの名残だよ。宿にして実際住んでみると、そんな豊の生活や、町家が持つ本当の素晴らしさを知ることができると思うんだよ。この豊かな文化都市京都で、その経験ができるのは素晴らしいし、意味があるよ。だって世界中どこを探しても、こんな場所はないんだから。

Q 今後の活動を教えて下さい

A 「庵」はこれまでに7軒の町家をリサイクルしたけど、2008年の3月に「三坊西洞院」という宿をオープンさせるんだ。ここは、二階に画家のアトリエがあった家でいい感じなんだよ。そこにはたくさんの文化人が集ったんだろうね、谷崎潤一郎らと交わした手紙なんかも残っているんだ。僕は今、この宅成をとても楽しみにしているんだ。庵の活動は京都を拠点にしているけれど、今後は、全国に広げるつもりだよ。今京都でやっていることをモデルケースにすれば、日本の過疎の村も再生できるんじゃないかと思っているんだ。僕の本来の目的は、美しい古民家を残すことだからね。全国各地で、それを実践していきたいんだ。そのプロジェクトはすでに始まっているんだ。具体的には、僕が昔住んでいた徳島の東祖谷、それから加賀、長崎でも話があがっている。僕はそのどれもをリスペクトしているから、きっといい形で再生できると信じているんだ。だから楽しみに待っていてほしいね。

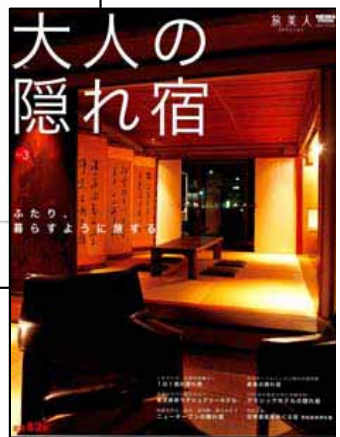


1 アレックスが改修した築300年の古民家は徳島県東祖谷釣井集落にある。2 庵の「西六角町」は、2階にリビングを設け、虫籠窓越しに外の景色が見られる（写真）。小さな家が好きな人には「石不敲之町」も。3 祖谷での経験を綴った初めての著書「美しき日本の残像」（新潮社）を出版後、執筆活動にも忙しい。写真は著書「犬と鬼」（講談社）。

京町家を再生する株式会社「庵」の会長 アレックス・カーさんインタビュー

郷愁にかられる町家は、ひと頃のブームではなく、今では京都の一つの顔と言えるまでになった。その魅力を広く伝える仕掛け人の一人がアレックス・カー。東洋文化の研究者で、伝統文化や芸術に造詣の深い彼は、維持の難しさにあえぐ日本の遺産を、リサイクルの概念で守り続けることを願う。それを実践してみせる「庵」の宿には、どんな思いが込められているのだろうか。

アレックス・カー　Alex Kerr
『株式会社 庵』会長
1952年 アメリカ合衆国メリーランド州出身。12歳の時に、軍人の父に連れられ横浜に移り住む。アメリカのエール大学で日本学を選考、オックスフォード大学では中国学も学ぶ。学生時代の旅で出合った徳島県祖谷に魅せられ、そこにあった茅葺き屋根の民家を購入、修復にとりかかる。これに端を発する古民家のリサイクルは、京都の町家を再生し、宿泊施設として提供する「庵」の活動で本格的になる。日本を深く掘り下げた「美しき日本の残像」（新潮社）「犬と鬼－知られざる日本の肖像」（講談社）など著書も多数。現在はタイと日本を往き来しながらの生活を送っている。



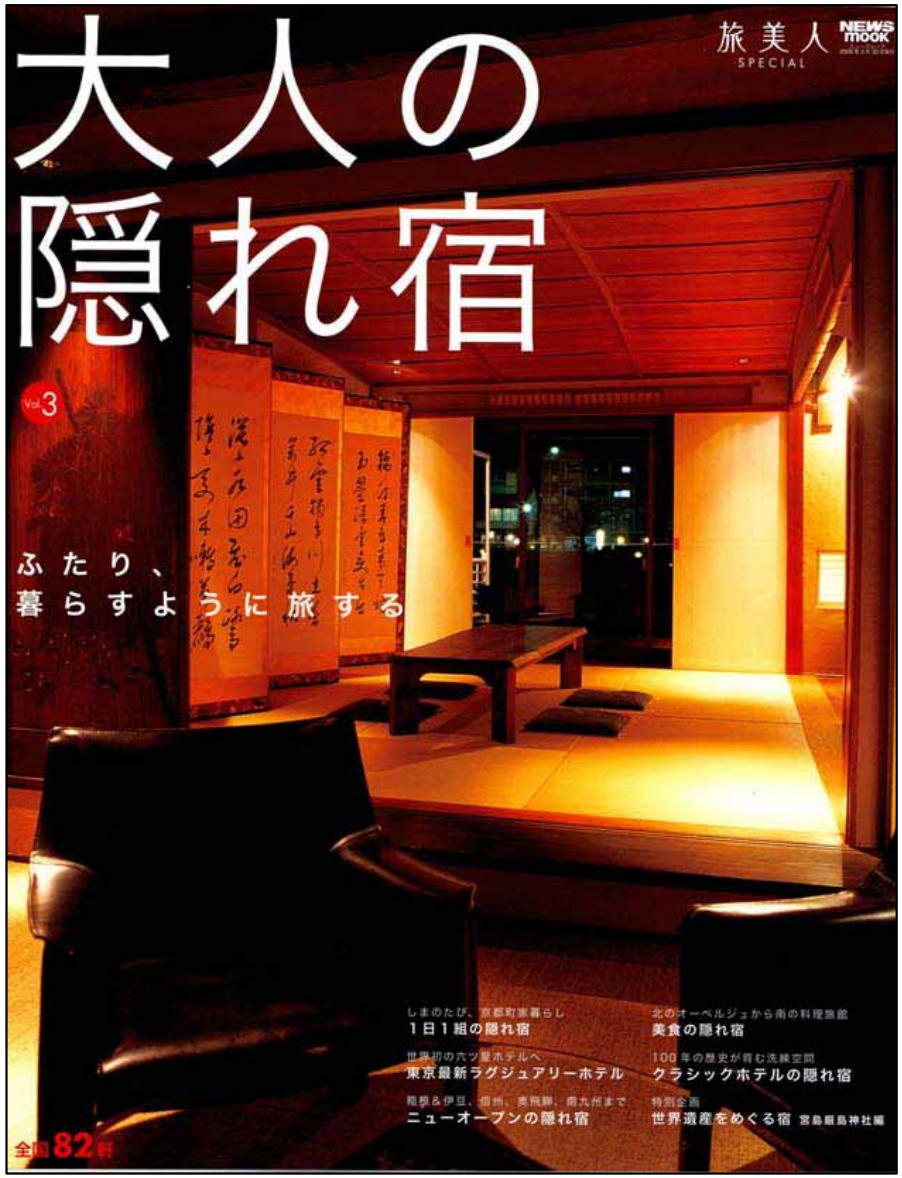
大人の隠れ宿　2008年3月

京町家ステイ　「ふたり、暮らすように旅する」

column01 町家建築ミニ図鑑

生活空間に生まれた日本の伝統美
意匠と工夫を凝らした先人の創意

32



大人の隠れ宿　2008年3月

京町家ステイ

Grazia
March 2008

in Style 01

"暮らすように過ごす京都"を実現

京町家ステイの「庵」に新しい町家がオープン

小さいけれど心和む坪庭があり、表に出れば遠く山を望む古都の街並み。そんな京町家を1棟貸し切っての片泊まりを提案する「庵」の、7つ目の町家が生まれた。鴨川を見下ろす床付きの「和泉屋町 町家」や茶室付き「西洋小路町 町家」など、町家ごとに魅力的な特徴があるが、「新門前 町家」最大のチャームポイントはなんといってもその立地にある。京都きっての骨董、古美術商が並ぶ界隈にあり、祇園の中心地まで歩いて5分で着いてしまうのだ。「庵」では食事は外に食べに行くか、仕出しをとるかという選択になるため、徒歩圏内においしい店が密集しているというのは相当ポイントが高い。

つい最近まで生花店だったという建物は、窓やシャッターを格子戸に、また、2階を中2階式出窓に変えて昔ながらの町家を再現。庭に面した浴室はガラス戸を開け放てば半露天風呂に。加えて床暖房完備、吹き抜け天井の天窓はリモコン操作で開閉可能と現代的な快適さもバッチリ備わっているのだ。

撮影／武藤哲子　取材・文／寺尾玲子

ほかにもある、おすすめ町家

和泉屋町 町家

DATA

鴨川に面した床付きの町家。表は2階の出窓から高瀬川のライトアップされた桜、夏は大文字の送り火を眺めることができる。●所在地：京都市中京区木屋町通松原上ル　料金：2名利用1泊定料¥40000～(最大定員6名)。問い合わせ先は右に同じ。

西六角町 町家

DATA

築100年の町家。出窓が特徴的な外観。インテリアは清潔の戸板や狩衣の衣装を用い、アジアンテイストをミックスさせた和モダン。●所在地：京都市中京区六角通新町　料金：2名利用1泊定料¥20000～(最大定員6名)。問い合わせ先は右に同じ。

新門前 町家

DATA

所在地：京都市東山区新門前通大和大路
問い合わせ先：庵　☎075-352-0211
料金：2名利用1泊定料¥80000～(最大定員6名)
www.kyoto-machiya.com/

1小さな庭に臨むリビングルームは畳の間。2吹き抜け天井の格子間には華麗がエネルギッシュな「乾坤一擲」と書かれた金箔風が飾られる。3隣の清新な香りに癒される浴室。4洗練して時流した調理台。紙面で恐縮を呼ぶお茶室に花を納めていた商家らしい風情が残る。5室内にはオーナーであるアレックス・カー氏所有の古美術品が配される。布団のカバー敷りは無垢さんが使用していた服をアレンジしたもの。6家紋を記した提灯箱が町家の歴史を物語る。

15

35歳からが女は本物!

Grazia

特別付録
このひとに肌を託したい
神の手エステティシャン30人

「雰囲気ある女」の秘密
風吹ジュン、
桐島かれん、りょう
大人を美人にするメイク 実践授業

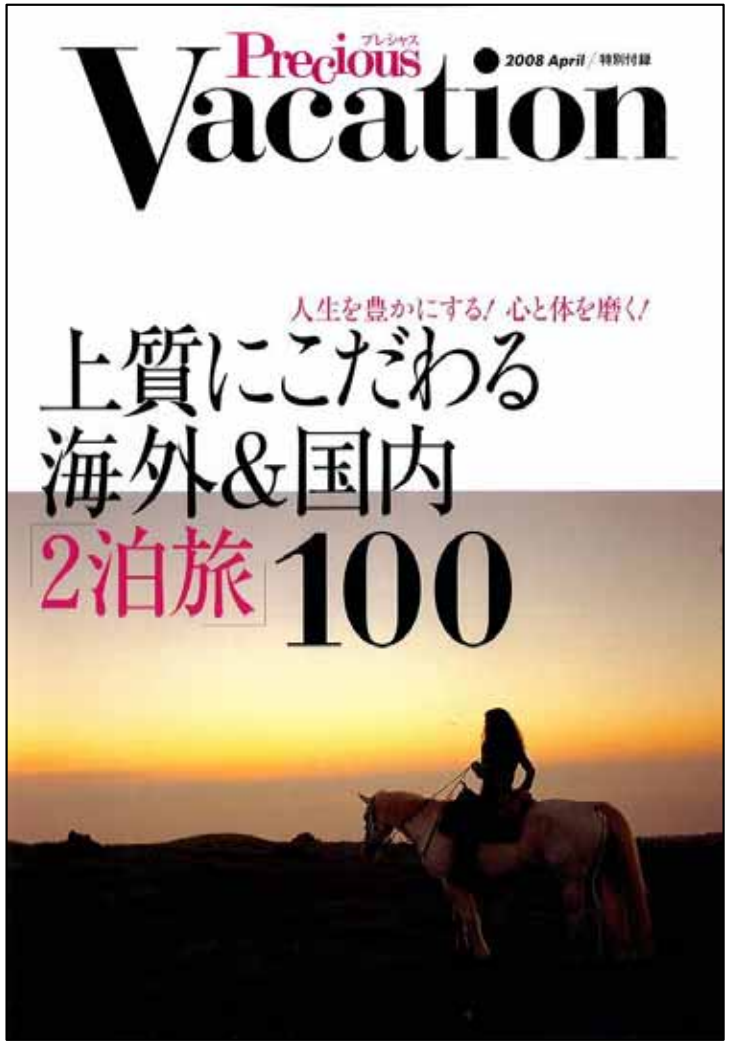
美しい女の美しいマナー
"大人"と呼ばれる年齢になったら
当然知っているべきこと

ファッション特集
美人色ベージュの法則
海外女優の美人コーディネート
「約束ある日」のワンピース22
あのブランドの スタイルup名品

大特集
簡単!
艶美人に
なれる服

Grazia　2008年3月

京町家ステイ



Plan 87 貴船・亀岡 Kyoto

小旅行気分で京都郊外まで行く乗り物の旅

エッセイスト
酒井順子さん

「京都の街は遊びつくしたというリピーターにおすすめしたいのが、'乗り物'で郊外まで行く旅。です。京都を観光するとき、タクシーで移動する人が多いと思いますが、電車に乗ったり、自分の足で歩いたりして、ちょっと遠出をすると、また違う京都の表情が見えるというもの。実は、この1日目のコースは、雨の日に傘がなくても地下やアーケードを通って烏丸御池まで行き、さらに琵琶湖まで行けるんですよ。春は、車窓から、いろんな場所の桜に出合うことができるのも楽しみですね」

私の2泊旅プラン

1日目
- 午前　東京駅=新幹線⇒京都駅
- 午後　地下鉄で寺町通へ。文具など購入。烏丸御池の京都市役所駅=地下鉄東西線&京阪京津線（約25分）⇒浜大津駅まで移動し、琵琶湖の遊覧船「ミシシッピー号」に乗って琵琶湖巡り
- 夕食　市内まで戻り、「月村」で釜めしをいただく
- 宿　西陣の会員制宿「維成宿所」☎075・431・0020

2日目
- 午前　朝食後、出町柳「出町 ふたば」の豆餅を購入。叡山電鉄鞍馬線の車内ではおばる。（約30分）⇒鞍馬駅下車　鞍馬「杉々堂」の山椒餅をおやつに購入し、「鞍馬寺」を参拝。さらに木の根道（山道）をハイキングし、「貴船神社」へ。貴船駅⇒叡山鉄道で市内まで戻る
- 夕食　紙園「千ひろ」で懐石コース
- 宿　「維成宿所」

3日目
- 午前　朝食後、JR嵯峨野線⇒嵯峨嵐山駅下車。トロッコ嵐山駅から約20分、トロッコ亀岡駅までトロッコの旅。亀岡駅=船で保津峡下り⇒嵐山へ
- 昼食　嵐山で軽食後、京都駅=新幹線⇒東京駅

1.「月村」のえび釜めし¥1,995。味がしみてほっこり優しい味。下京区西木屋町四条下ル船頭町 ☎075・351・5306　2.いつも行列の「出町 ふたば」。そのお目当てはえんどう豆がぎっしり入った、名代豆餅（1個¥160）。☎075・231・1658　3.紙園の名店「千ひろ」の春のお椀。京都の粋が感じられる一品。昼夜共に¥12,000〜。東山区紙園町北側279-8 ☎075・561・6790　4.ノスタルジックなデザインの観光列車「嵯峨野トロッコ」。嵯峨野から保津川渓谷に沿って、丹波路・亀岡にいたる7.3kmを約25分で結ぶ。☎075・861・7444

Plan 86 衣笠・桂 Kyoto

美しい庭園を巡り、静寂を楽しむ

ジャーナリスト
ケイト・クリッペンスティーンさん

「サンフランシスコで生まれ、在日20年以上ですが、京都造形大学に通ったり、シンポジウムに参加したりと、京都の観光体制や環境整備の改善を真剣に考えてきました。そんな思い入れの強い京都では、なるべく人の少ない時期に訪れて「庭園」の静寂を楽しみます。東洋文化研究者のアレックス・カー氏がプロデュースする宿「庵」に泊まるのも、静かで落ち着けるから。素晴らしい庭園と、おいしい和食屋さんでピースフルな時間を楽しむこと、これに尽きますね」

私の2泊旅プラン

1日目
- 午前　品川駅=新幹線⇒京都駅
- 昼食　地下鉄（約10分）⇒二条通柳馬場「café bibliotic Hello！」へ直行
- 午後　「哲学の道」周辺を散策　阿弥陀如来像や「法然院」内の谷崎潤一郎の墓などじっくり見て回る。途中、「Kyoto 生 Chocolat Organic Tea House」でゆっくりお茶をする。「庵 和泉屋町 町家」にチェックイン
- 夕食　「御料理 はやし」で懐石料理を堪能
- 宿　「庵 和泉屋町 町家」

2日目
- 午前　ゆっくり歩いて三条通りのお気に入りカフェ「Red Rubber Ball」でコーヒー&軽食。車⇒「龍安寺」の石庭を眺める
- 昼食　「高台寺　和久傳」で素敵な庭を眺めながらの懐石コース
- 午後　三条通「香老舗 林龍昇堂」のお香や錦小路「有次」の包丁を見て回る。車⇒「大仙院」の枯山水庭園を味わう。途中「松屋藤兵衛」の菓子を購入
- 夕食　「紙園 さ々木」で魚料理を堪能
- 宿　紙園「料理旅館　白梅」（片泊まりで）☎075・561・1459

3日目
- 朝食　「白梅」にてしっかりいただく
- 午前　チェックアウト後、車⇒「西芳寺」へ。「苔寺」や「鈴虫寺」を散策
- 昼食　甘味処で和菓子とお茶で休憩
- 午後　京都駅=新幹線⇒品川駅

1.「庵 和泉屋町 町家」は2階建て1棟で定員6名。2名で使用¥40,000〜。予約はウェブサイト（www.kyoto-machiya.com）から　2.「御料理はやし」。写真は若芽と若竹の子のお椀。夜コースは¥8,000〜。上京区河原町通今出川下ル梶井町448-61 ☎075・213・4409　3.世界遺産の「龍安寺」の石庭。拝観料¥500　4.「香老舗 林龍昇堂」のお香は手前から「大文字香」¥630、「江ノ島香」¥840。☎075・221・2874　5.人気割烈「紙園 さ々木」。写真は春のお造り。夜コースは2名で¥42,000〜。東山区八坂通大和大路東入ル ☎075・551・5000

Precious Vacation 2008年4月

京町家ステイ　「暮らすように楽しむ京都のお家」

BELLES FEMMES SEAT

読者の皆様へ、特別な時間を楽しむ指定席へ『婦人画報』がご招待します

FUJINGAHO ベルファム・シート

『婦人画報』が読者の皆様にお届けする"感動体験"
ベルファム・シート。観劇やグルメ、美容サロン、芸術鑑賞など、贅沢な時間を
どうぞご一緒に…。たくさんのご応募をお待ちしています。

上／太い梁をめぐらした吹き抜けのあるリビング。左／格子戸が美しい玄関。

[ベルファム・シート A] 3組6名様 歌舞伎座五月公演 千穐楽チケット　年間購読者限定

特集「歌舞伎の本流　音羽屋の芸と家」(P.68) でご紹介した『團菊五月大歌舞伎』千穐楽の一等席へ、合計3組6名様をご招待いたします。團菊祭の華やかな舞台をご堪能ください。■実施日時／2008年5月[illegible]日(月)　開演は昼の部11時、夜の部16時30分　■場所／歌舞伎座　京都中央区銀座4-12-15　■人数／昼の部1組2名様、夜の部2組4名様

上／青天今樹葉之四[illegible]じる尾上菊五郎。下／[illegible]五郎に扮する[illegible]十郎(写真提供／[illegible]写真部)。演目と[illegible]は次の通り。■昼の部[illegible]「義経千本桜」(渡海屋[illegible]物語)」「八重垣姫([illegible]獅子)」「梅初春謹[illegible]花見(はんぜいちょうえ)」■夜の部／「通し[illegible]　吉岡鳴亀和歌[illegible]おとぎうしはなのにしえ)」「白浪五人男」「三[illegible]鳥舞(しらなみ[illegible]のくせまい)」。■出演[illegible]尾上菊五郎　市川團十郎　中村富十郎　坂田藤十郎　中村梅玉　市川左團次　坂東彦三郎　中村歌昇　中村時蔵　中村東蔵　中村時蔵　坂東玉三郎　尾上松緑　市川海老蔵　(ほか)

[ベルファム・シート B] 1組2～4名様 京都「庵」1泊2日町家ステイ　年間購読者限定

連載「FUJINGAHO RECOMMENDS」(P.175) でご紹介した京都「庵」の町家ステイ。昨年末、生花店であった町家を再生してオープンした新門前の一軒を貸切でご招待 (80,000円相当)。風情溢れる町家で暮らすような滞在をお楽しみください。■実施日／2008年6月1日～11月30日の間の1泊(ただし土曜・祝日の前日と桃園祭・お盆時期を除く、交通費自己負担) ☎075-352-0211(要事前予約)　■場所／「庵 新門前」京都府京都市東山区新門前通大和大路　■人数／大人4名様まで宿泊可能。

婦人画報　2008年5月

京町家ステイ

2008
温故知新の話題の最新スポット

大物揃いの旅館カフェ
遊形 サロン・ド・テ
【京都市役所前】

吉田山荘、美山荘と有名旅館カフェのオープンが相次ぐ。ここはあの「俵屋」のカフェ。これまで旅館の宿泊客しか口にできなかったお菓子、わらび餅を味わえる。抹茶やほうじ茶、煎茶と一緒に楽しみたい。一方、ここでぜひ味わいたいのがコーヒー。今はなき「カフェ リドル」直伝の香り高いコーヒーがいただける。

京都市中京区姉小路通麸屋町東入ル北側
地下鉄京都市役所前から徒歩5分
☎075-212-6883
11時～19時　火曜休
クレジットカードほぼすべて可

一見もOKのお茶屋さんの料理店
文楽
【上七軒】

お茶屋バーは京都の定番だが、昨今はお茶屋さん経営の料理店も登場。ここは上七軒にあるお茶屋「市」がプロデュースする和食店だ。「市」は一見お断りのお茶屋だが、こちらは紹介者なしでも食事ができる。コースは6000円、8000円、1万円（税サ別）の3つ。何度か「文楽」に足を運んで馴染みになれば、「市」への道が開ける可能性も。

京都市上京区北野上七軒
バス「北野天満宮」下車
徒歩3分
☎075-465-3456（要予約）
17時半～21時半（L.O.）
日祝休
クレジットカードほぼすべて可

ホテルに飽きたら高級町家
庵 西洞院
【三坊西洞院町】

ホテルや旅館に飽きた人は高級町家に泊まってみては？　庵は京都に現在9軒ある、短期滞在型の京町家。中でも最も新しいのが、この6月から使える西洞院だ。築150年の町家とはいえ、床暖房や無線LANなどが完備され、不自由さは全く感じない。食事が付かない素泊まりだが、冷蔵庫や電子レンジは用意されており、簡単な調理は可能。

京都市中京区三坊西洞院町
地下鉄烏丸御池から徒歩10分
☎075-352-0211（庵）
チェックイン16時、アウト11時
3万9000円～7万2000円（2人利用）
クレジットカード不可

KYOTO骨董ニューウエーブ
てっさい堂アネックス 昂
【古門前】

京都を代表する骨董の名店「てっさい堂」の向かいに、「てっさい堂アネックス昂」が今年2月オープン。リキュールグラスなど小物を中心に扱う。面白いのは、京都の花材店「花故」とのコラボレーション。古伊万里の向付に植えられた観葉植物など、店内は使い方のプレゼンテーションに溢れ、骨董初心者でも日常の生活に取り入れやすい。

京都市東山区古門前
大和大路東入ル元町378-1
京阪三条駅から徒歩5分
☎075-525-0805
11時～18時
月曜定休、ほか不定休あり
クレジットカード不可

1008
源氏物語を今に映すスポット

物語に登場する花を愛でる
城南宮
【伏見】

平安遷都の際、都の南国の守護神として創建された神社。洛南の花の名所としても知られ、「春の庭」の中には「源氏物語花の庭」と呼ばれる庭があり、物語に登場する100余種もの花が四季折々に咲き誇る。また、「平安の庭」では、王朝貴族が遊んだ庭を楽しめる。毎年、春と秋には曲水の宴が行われ、多くの人で賑わう。

京都市伏見区中島鳥羽離宮町7
市バス「城南宮東口」下車
徒歩5分
☎075-623-0846
参拝／境内自由。
庭園は9時～16時
拝観料／無料（庭園は500円）

源氏物語の薪能を上演
平安神宮
【東山】

平安遷都1000年を記念して、明治28年に創建された神社。「賢木」の巻の伊勢に下る斎宮と天皇との別れの場面に思いを巡らせるのが、社殿の内、南門に当たる応天門や大極殿とその回廊。平安京大内裏の正面にあった正庁、朝堂院を3分の2の規模に模したもの。また、神苑は明治時代の代表的な庭園として知られ、四季折々の花が美しい。

京都市左京区岡崎西天王町
市バス「京都会館美術館前」下車
徒歩3分
☎075-761-0221
参拝／6時～18時（季節によって変わる。受付は閉門の30分前まで）
拝観料／無料（神苑は600円）

平安の下町を映す風景
夕顔の墓
【夕顔町】

五条大路の領路なー角で光源氏が出会った不思議な美女、夕顔。霧友・頭の中将の恋人だった夕顔は、源氏と出会ってすぐ薄幸な人生を終えた。その名が夕顔町として残る地には夕顔の墓がある。夕顔は物語に登場する架空の人物。京の人々の心を、いかに源氏物語が捉えているかがよく分かる。碑は、一般住宅の庭にひっそりと立つ。

京都市下京区堀町松原下ル
市バス「河原町松原」下車
徒歩15分

皇室ゆかりの西山の寺
仁和寺
【御室】

御室御所とも呼ばれた仁和寺は、「若菜」の巻で光源氏の兄の朱雀院が出家した「西山なる御寺」とされる寺社。千年紀を記念して、公開イベントを行う（全9回）。5月24日「王朝の物語と草花」、6月26日「王朝の旅・紫式部と武生」、9月27日「王朝の物語と能」ほか。問／☎075-801-5315（京福電気鉄道）、☎0570-02-9999（チケットぴあ）

京都市右京区御室大内33
バス「御室仁和寺」下車すぐ
☎075-461-1155
参拝／9時～16時半
（受付は閉門の30分前まで）
拝観料／御殿500円、
宸宝館500円

日経おとなのOFF 2008年6月

京町家ステイ

夕暮れの色に染まるなか、ふと、川は流れていた。納涼床を開き、座敷から板張りのテラスに出ると、川面を涼やかな風が吹き抜ける。せせらぎの響きが聴こえないかと耳を澄ませてみたが、鴨の面の流れが絵やお囲まるかのように、黄昏の街を行き交う人々のさざめきの中に、その音が旅人の耳に届くことはなかった。

宮殿、ドル、本屋町通り、四条と五条の中ほどの、鴨川に臨む一軒の町家で、旅人はぼんやりと水の流れを眺めている。振り向いても、そこには世俗外のたれの安寧さ。二階建ての町家はそのまま、まるで浜辺の人のような静謐に満たされている。だからこそ旅人はものの思いの中に沈みかけていた。後はその時、こんなことを考えていたのだ。そう、時の流れは川にも似て、一度過ぎ去ってしまえば二度ともとには戻らない……。

いまさら過ぎ去りし日のことを、と笑うのは簡単だ。いや、普段の自分だったら、まずこんな言葉を口にすることもなかったろう。と旅人は思う。「もしここでは、海辺、ここではアーティスティックな自然に、そんな感傷が胸に湧いてくるのだ。考えつくのではない、実感されるのだ。この京都の街ではこの流れのはとりわけ、おそらくこの街ほど、時の流れの意味、その意義を人に感じさせる場所はないのではないだろうか。「行く川の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」と唱いたのは、まさに眼の前を流れるこの川の上流にある神社の神職の家に生まれた歌人だった。この流れは、そんな低き浅きを教えてくれる。

都が遷都されてから千一百年以上、想えばこの街ほど、数多くの人々の想いが結晶している場所はない。言い換えれば、この街ほど、多くの時が流れ去った場所もないのだ。例えば……と旅人は考えを巡らす。そう例えば、料理にだってそれは言えるだろう。「京料理」という言葉ひとつをとってみても、王朝時代の有職料理から茶事に源流を持つ懐石料理まで、さまざまな料理のエッセンスがそのDNAに組み込まれている。いわばこの古都に生きた無数の人々の想いが重層的に絡み合わされて、ひとつの無の上に結実しているわけで、つまりこの街は外では京料理を生まれるはずもなかった。

あるいはこの町家、一軒の建物と呼ばれるこの独特の建築も同じだ。間口が狭く、しかし中に入ると驚き深い。家の中は時として数くはと広がり、次々にたち現れる座敷には様々な物語が封印されている気配。そんな気配さえ感じさせてくれるこの街を通り過ぎた時の流れが流れ込んできたからのであるのだろう。

旅人は時を見る。約束の時刻が近づいてきている。京都の街は夜の色に染め抜かれ、暖かい灯の色が川面にも揺らめいている。実は約束の相手が来るという確信は、旅人にはない。待ち合わせの日時と場所だけを伝え、葉書を書いた手に直接にやってきてしまったからだ。彼女はまるだろうか――。時の流れの中の、さざめかな物語。それが本当に始まるのかどうかは、もうすぐわかる。玄関に向かおうと脚を向けたとき、せせらぎの響きが涼やかに、彼の耳を撫った。

時の流れに向けて開かれた窓辺に

東京カレンダー　2008年6月

京町家ステイ

庵 三坊西洞院町町家

これまで八軒の町家を紹介してきた「庵」の、九軒目、すなわち最新の一軒がこの「三坊西洞院町町家」だ。もとは築百四十八年という風雪を刻んだ町家。全体に傾いていたこの建物をジャッキで丸ごと持ち上げ、周囲の基礎を固めることから、再生は始まったのだという。

二階は全面床張り。修復の際、全面を敷きつめてある。手をつける前にはかなり低い位置に天井があり、梁もその裏に隠されて見えなかった。しかし一度天井を壊した後に梁を見せた後の巨木の力感に、この再生に携わる人々は感動し、この梁をこそ空間の核心として復元しようと決めたのだという。そのために天井は取り払われ、遥かな屋根まで高く開放された空間が生まれた。

一階の天井が低いのは、二階の開放感との対比は、狙いの一部だ。

北山杉の絞丸太が随所に使われるなど、ここでも細心の配慮がなされ、そしてこの町家はまた新しい生命を得た。長い時を経た町家には綴られる新しい一章。六月にはその一章が始まる予定という。

長い長い時が飴色に
染め上げた梁の下、
京でしか見えない
夢を見る人。

IORI SANBONISHINOTOINCHO MACHIYA

庵 材木町町家

鴨川の流れに臨む
町家の座敷で、
旅愁が胸に静かに
波紋を広げていく。

IORI ZAIMOKUCHO MACHIYA

京都の街に漂う味わい深い町家に、その風格を損なわないよう細心の配慮を施しながら改修を施し、そして新たな生命を吹き込まれた町家。一棟をそのまま一組の旅人へ貸し出す――それが「庵」が編み出したスタイル。時代の流れに洗われ、次第に朽ちていく京の心という土壌で、少しでも改善したいという思いを新しい息吹で。

この「材木町町家」を立ち上げた一軒、鴨川の流れと同化に対峙する「という立地に佇む二階建ての町家は、ともかく惹きつけられる鴨川の情景が魅力だ。一階は格子窓を開けば和数きのテラスが張り出していて、眺めがいつまでもあの流れが導く旅路に身を任せているようにさえ感じられる。そんな旅かな川のせせらぎの響きさえも、優しい。

一晩が明けて朝を迎えますと、町家の座敷には朝の光が満ちている。「おはようございます」――その高揚を迎えた人は、胸の中の優しい地平に、そっと囁いてみた。

東京カレンダー　2008年6月

京町家ステイ

□町の中心地に点在する一棟貸しの町家で、きままに過ごす。

01・「和泉屋町」の町家のリビング。すわり心地のいい椅子などの家具はカッシーナ製。02・「新門前」のゆったりと広いリビング。1階には和室とキッチン。2階にはベッドルームが2部屋ある。03・大きな窓の浴槽から美しい庭が眺められる。04・「和泉屋町」の玄関は京都らしい路地の奥。05・「和泉屋町」の町家からは、鴨川を一望できる。近所には創作など料理屋も多い。

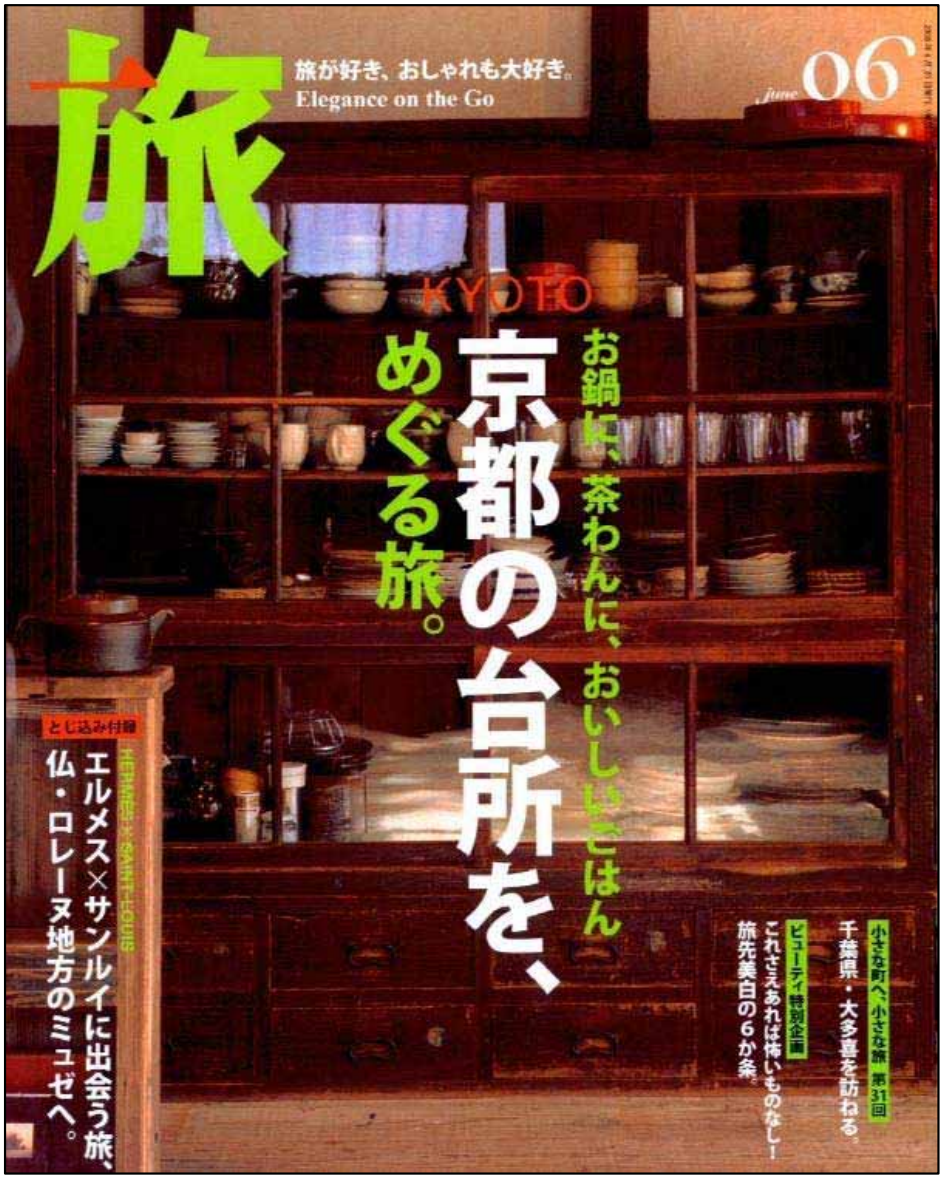
たとえ一晩でも、町家のあるじになれるとしたら？　そんな夢が叶うのがここ。町のあちこちに8軒の町家を所有する、一棟貸しスタイルの宿だ。1泊から借りられるから、京都の週末にふらりと立ち寄るような気軽さで、活れることができる。

時間をかけて改装したというだけあって、どの建物にも個性を生かした工夫が。「和泉屋町」の町家は、高瀬川を見下ろす出窓が特徴。お風呂は檜で贅沢に、リビングはイタリア家具で居心地よくしつらえてある。ほかにも、坪庭が美しい「西八角町」や、茶室を備えた「恵美須屋町」など、広さも趣きもすべて違うから、自分にぴったりな一軒を選ぼう。

どの町家も中心地にあって、木屋町、祇園などへ、おいしいエリア、へは、そぞろ歩きにちょうどいい距離。心置きなく京都の夜を満喫できる。「ホテルや旅館とは違う、プライベート感を楽しんでいただきたいですね。クリーンアップなどもご相談ください」。別荘の居心地とホテルのような サービス、両方のちょうどいいバランスが、とてもいつな居心地のよさを作り出している。

いおり

京都市下京区富小路通高辻上ル
和泉屋町 144-6（事務所）
TEL 075-352-0211
FAX 075-352-0213
全8棟
チェックイン 15:00
チェックアウト 11:00
◎ 和泉屋町の家 1泊2名まで
¥45,000～
4名まで ¥80,000～
新門前の家 1泊2名まで
¥50,000～
4名まで ¥100,000～
料金は税込
朝食：なし　カード：不可
www.kyoto-machiya.com
MAP → P079



旅

旅が好き、おしゃれも大好き。
Elegance on the Go

June 06

KYOTO

お鍋に、茶わんに、おいしいごはん
京都の台所を、
めぐる旅。

とじ込み付録
HERMÈS × SAINT-LOUIS
エルメス×サンルイに出会う旅、
仏・ロレーヌ地方のミュゼへ。

小さな町へ、小さな旅 第31回
千葉県・大多喜を訪ねる。

ビューティ特別企画
これさえあれば怖いものなし！
旅先美白の6か条。

旅　2008年6月

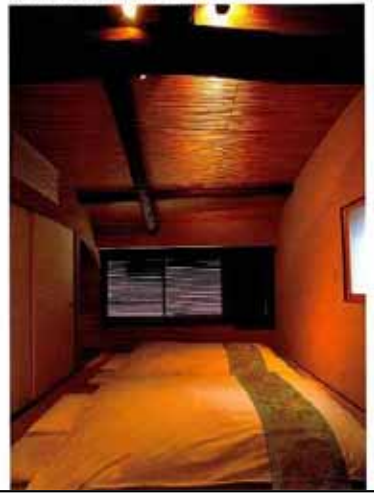
京町家ステイ

先生からひと言

町家を一軒借りる大胆な試みが新鮮

京町家 庵 祇園新門前

町家に暮らす気分で非日常を味わう。これぞ京都ならではの旅の形です



こんなはずではなかったのに……と、後悔しないために旅館や町家ステイにおける注意点を覚えておきましょう

STORY 2008年6月

京町家ステイ

芸妓さんが住んでいた町家に泊まるのも、京都ならでは。

川床の向こうは鴨川、町家には骨董がよく似合う。

宮川町の芸妓さんが住んでいたという二階建ての町家。骨董をあしらって、さらに趣のある部屋にそれぞれしつらえてあるが、季節のバンダジという木箱を開ければ、なんと涼しかが。ただ、古いものを並べるのではなく、遊びがあるのが楽しい。上の大きな写真は一階のリビング。左にある花入れを置いた台は古い琴を利用したオブジェ。琴の弦がよく似合う。

庵 材木町町家 京都市

川床でビールを飲みながら、町家に暮らす気分を味わう。

築百年あまりの古い町家を再生した。鴨川が目の前を流れる。四条より下、つまり南なので、散歩する人も地元の人ばかり。静かなものである。春にはさぞかしと思われる桜並木が川に沿って続く。

東山が夕日に輝くころ、あたりの空気もうっすらとピンク色に染まる。川の向こうの祇園にぽつりぽつりと灯りがともり始め、夏の夕暮れは、もやがかかったように景色が淡ざかる。

これからの季節、どうしたってうれしいのは川床があること。鴨川にせり出した川床で、のんびりと風に吹かれてビールなんて飲んでみたいもの。遠く、大文字も見えるという。

ここは宿でもホテルでもない。なぜかと言えば、スタッフが常駐しないから。鍵の受け渡しをしたら、もうあとはゲストのみ。祇園まで歩いて15分。京都の宿で食事に困るということもなし。火の始末が危険なのでコンロはないが、冷蔵庫とレンジなどはあるので、京野菜をちょっと料理するくらいならできそうだ。

部屋には、季節やクメール朝時代のものなどアジアの骨董が、カッシーナやコンランのモダンな家具と並ぶ。古きものと新しきものが出合う、まことに京都らしい空間だ。

空調や寝具は最新のもの、すこぶる快適に過ごせる。

スタッフがきちんと寝具を整えておいてくれる。リビングには冬のための床暖房も設置。クーラーも各部屋にあり、古家だからといって、居心地が悪いという心配はない。泊まりでも4人までしか泊まれないが、こぢんまりとした印象のわりに、ひろは広い。一階は八畳くらいのリビングと和室の二部屋。二階には寝室と和室と板の間。細に細長い造りが町家らしい。

江戸後期の屏風絵と今の京都を比べてみる。

この町家ステイを提唱するアレックス・カーは日本に魅せられたアメリカ人。「鳴」と名の付く、こうした町家を他にも七軒所有した。各町家に骨董がしつらえてあるが、この一階のリビングにある琵琶形の屏風は、なかでも最高級のものだという。カッシーナの革張りのソファが、らしいといえばらしい。

いおり ぎいもくちょうまちや 京都市下京区木屋町通松原下ル 京阪本線「五条」駅より徒歩10分。☎075-353-0211 チェックイン16時、チェックアウト11時。1泊2名で利用の場合1万7000円～7万円。この町家の客室は半間で、バスとトイレが一緒になっている。泊まるのは最大でも4名まで。料金と人数によって値段が異なる。http://www.kyoto-machiya.com

クロワッサン 2008年7月25日

京町家ステイ　「京の都で、町家暮らし」

旅咲　2008年夏

京町家ステイ　「京の都で、町家暮らし」

京都

仮の宿に町家を選ぶということ

アレックス・カーさんに聞く、京都の美しさとは

今、宿というアプローチから
京都旅行を変えようとしている人がいる。
そこには町家、そして京都に対する愛情があり、諦れぬ想いがあった。
本物に触れる機会を得て、京都を旅してみよう。

町家ステイの仕掛け人、その原体験とは？

京都の旅行スタイルが、変わり始めている。その中で「町家」から始めに対してアプローチしている人物がアレックス・カーさんだ。「町家ステイ」を提唱し、いわゆるセカンドハウス的な町家宿を営んでいる。サイズは大小さまざまであるが、どれも遺憾な素泊まり宿にリノベーションし、ここ数年で9軒を完成させ、評判を呼んでいる。なぜ氏が京都や町家を愛するのかを聞いた。

父の仕事の都合で幼少期を横浜で過ごしたアレックスさんの、町家の原体験は大学時代に出合った一軒の古民家だった。「子供の頃から日本は好きだったんです。大学時代はイギリスやアメリカにもいましたが、日本の大学にも留学しました。だが同時に、今後ずっと日本と付き合っていいのかという自問もあり、それを確かめるために大学時代、日曜毎も決めずヒッチハイクで北海道から九州まで巡った。『乗せてもらった車の行き先が目的地。まぁ僅流ですね（笑）。最後にたどり着いたのが徳島の祖谷だった。そこが一番神秘的というか、山水画から出てきたような、ミステリアスな場所でした。ロマンが詰っているというか。家も、風景も。四国の山奥で、実は過疎地なんですね。空き家が多いことに気付いて、学生の僕でも家を買えるんじゃないか、と。徳島県、高知県、香川県……、四国の山地をずいぶん探しました。で、21歳のときに家を買った。値段？二万三千円でしたよ』。

そこで日本に魅せられた、いや、惚かれたといってもいいかもしれない。『日本は有、意外と古い家が捨てられているから、学生だった僕でも家を買うことが可能だった。（事務所に飾られている）美術品にしても、お金持ちでも博物館の学者でもない僕が、江戸時代の文人の屏風を集められるはずがない。日本にとっては不幸で、僕にとっては幸運だね（笑）。世界の市場感覚では不可能な夢が、日本で叶ったわけです』。

下京区にある社屋の2階には稽舞台も設えている。お気に入りの金屏風前にて

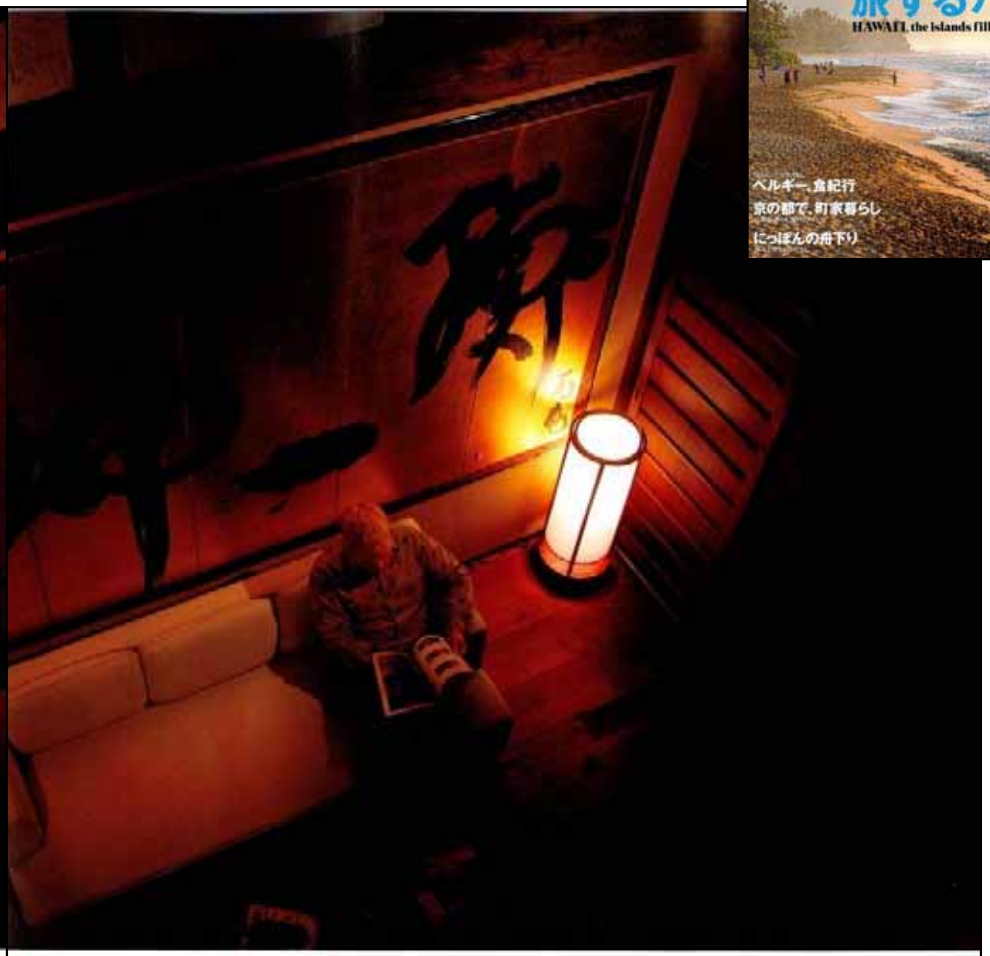
旅咲　2008年夏

京町家ステイ　「京の都で、町家暮らし」

京都

Alex Kerr アレックス・カー
東洋美術研究者でもあり、著書も多数。
各国を飛び回りながら
京都に自分の土地にも同様の町家住宅を構想中。
株式会社 庵 取締役会長兼 55歳。

町家の宿を
手がけるだけでなく、
古美術品の蒐集家としても
つとに知られた存在。
宿にもそのコレクションが



「庵 祇園新門前」の2階から吹き抜けの居間を望む。
アレックスさん自身もお気に入りの場所である

い、愛情があって町家を使うのと、そうでないのでは味に差があるかもしれないけれどね」。

「家に住む」ような宿を

それが新しい提案

その中でアレックスさんが提唱として選んだのが宿というわけである。「世界には小さな家から、大きな屋敷まで、『家を借りる』という文化がある。イギリスでは城まで貸してくれる。サンタフェや、ニューヨークにもある。世界のまだった観光都市には、数十年前から常識としてあることだったんですが、京都に限っては一切なかったんです。昔の良さをビシッと持ったバランスがとれた修理のノウハウ、僕たちはそれが得意なので手がけている、ということです」。

アレックスさんが手がける宿は「住む」に近い、ロングステイのお手本とも言える。

「そのとおりです。たとえ一日二日だけでも、やっぱり『家に住んでいる』という気持ちになれるんです。すべてがプライベートスペースですから。いくら素晴らしくても、基盤やホテルだと自分の部屋を一歩出ればパブリックスペースなんですね。それが家なら、裸で歩きまわってもいいし、子供が騒いでいてもいい。夜遅くまで友達と話し合ったって構わない。当初は外国人が対象だったんですが、今は7割でもいいから日本人に提供すれば、日本人もわかってくれるんですね」

長期休暇という意味のバケーションの概念は、日本ではまだ贅沢なような気もするが、既存のホテルや基盤では味わえない、新たな宿泊のかたちは、確実に根づきつつあるということだろう。

町家と親しくなる瞬間に

本物の京都旅がある

日本にも古来より、旅籠や宿場、と呼ばれる旅文化はある。もちろん我々にも廻船や深いもので、伊次さんも竜馬さんも、永井荷風も、「群鶴の合間に寝床を得た」のであり、そういう意味では我々と変わらない。だがアレックスさんが提案しているのは、同じ日本の文化にたとえるならば、名のある大名や武将たちがお気に入りの屋敷で、酒に触れ、温泉などにそこに長く逗留したようなものではないだろうか。その贅沢をいま、ようやく我々は与えられたのだ。

世界のレベルで見ているアレックスさんにとっては「常識的なこと」をしているだけ、云々のだろうが、氏が京都に持ち込み、啓蒙している このシステムは、日本の旅文化に一石を投じたものである。さらにもっと大きな視野で言えば、街をより美しく、より豊かにしようとするものでもある。もっともっと、誰もが楽しめる京都という街を、美しい街になっていけ、と。

そのためにまず大切なのは「家と親しくなること」だとアレックスさんは言う。彼が手掛けてきた宿の数々は、京都人が愛してきた家である。それを宿に選べるということは、ある意味「本当の京都旅」が実現するということ。それはとても幸せなこと、と言えないだろうか。

古い空間の保存ではなく
新空間をつくっている

特に京都において、ここ数年の町家リノベーションは、本当に枚挙に暇がない。現行の建築基準法では同じ木造建築は建てられないため、手の込んだ改装工事が必要になるのは、それでも町家を店舗に選ぶのは、多くの場合「流行る」からだ。だがアレックスさんはそれも構わないと言う。

「改装については、正しい工法を知っていればコストが高いということはありませんし、私たちは古い建物という素材を、現代風にしているんですよ。古い空間を保存しているのではなく、新しい空間をつくっていると思っています。町家が流行るということは、古さが理解されてきたということ。問題はこういう家を価値とせず、ゴミとして壊してきたことで、その理由のひとつは使い方がわからなかったからだと思う。それがお宝を生む価値のある不動産だと思われるようになれば、京町家はこれまでのように壊されることはない。この街は救われますよ。使っていれば画廊でも何でもいい。パリでは建物はいろんな用途にリサイクルされている。だから街が生きていて、いつでもきれ

旅咲　2008年夏

京町家ステイ　「京の都で、町家暮らし」

右ページ／窓から隣家の庭を見る。玄関はこの家にあったもの
右／小さなスペースに茶室が設らえた階段　左上／1階座敷の大胆な市松模様　中／もともとここにあった柱　左下／リビングと好対照、落ちつきのある寝室

築百年近い建物を見事に生き返らせた

美し、いしつらえが光る、3つの町家スタイル

積み重なった時間の分だけ艶と風格をまとい、そこにいる人を包み込む町家。時間を経た建物でしか味わえない特別なひととき。それを独り占めする喜びを、アレックス・カーさんが手がけた3つの町家ステイに見つけた。

ば、一軒の家の中は完全な自分のプライベートスペースとなる。フロントも四囲もなく出入りは自由。こもる、時間を気にせず出歩く、といった、思うままの滞在を可能にしてくれる。

アレックス・カーさんが手がけた「庵」は、町家の暗さや不便さを払拭し、古きよき美しさをそのまま残した町家ステイ。世界のリゾート通を満足させる快適さのスタンダードを備えた中で、いにしえの時間に浸りきる、京都だけの新しい宿泊施設だ。

「家」が持っている
もてなしのオーラ

市内に8カ所ある「庵」に加わるのが、この夏オープンする「三坊西洞院」。表通りから見える建物は母屋で、「庵」となっている建物は母屋を通り抜けたその奥にある離れ。街の中心地にありながら表からは存在すら窺えない。まさに隠れ家的ロケーション。

路地庭は玄関と、茶室のにじり口につながっている。この家の元の主人は絵画を描き、茶をたしなむ趣味人だったそう。玄関右手にあるのが6畳の茶室。この家で営まれた風流な暮らしの残り香が、ふと目にした建物のディテールからかすかに感じられる。目で肌で感じる古い家のよさ。それだけではなく、家に込めこんできた住まい手の思いまでも想像しながらの滞在。これが、町家暮らしの醍醐味といえるのではないだろうか。

古い町家に宿泊する「町家ステイ」が人気を呼んでいる。京都の旅の魅力は日常とは違う古都の時間を味わうこと、神社仏閣への観光や老舗での買物だけでなく、滞在も「伝統」を感じさせる非日常であってほしい。「町家ステイ」を選ぶのはきっと考えるリピーターたち。旅館・民宿やホテルのようなサービスはないが、扉を閉めれ

風流な暮らしの名残を感じる
庵 三坊西洞院

いおり　さんぼうにしのとういん

data
住所：京都府京都市中京区西洞院通御池下ル
アクセス：地下鉄烏丸線烏丸御池駅から徒歩約2分
客室数：1棟貸切・和室12畳、茶室6畳、2棟貸切30畳、和室6畳（約115㎡）
料金：1泊30,000円（2名利用）～ ※季節によって設定が異なる。6名まで
クレジットカード：不可
施設・サービス：檜風呂（1階）、トイレ（1階・2階）※冷蔵、歯ブラシなどの備品はない

京都

旅咲　2008年夏

京町家ステイ　「京の都で、町家暮らし」

檜風呂に広い縁台。小さいながら広がりを感じさせる庭の設計が見事。ゆったりと涼みたい

場所ごとの変化が楽しい町家のディテール

1階には、やや天井の低い座敷があり、寝室が付属する。しっとりとした陰影の美しさに、心がスッと静まるよう。2階ではそれが一転して光があふれる20畳のリビング。元アトリエだった部屋だという。梁をむき出しにした高い天井の開放感は息を呑むばかり。この広い板の間のリビングに純和風の寝室が連なっているのもユニークだ。

一軒の家の中に現れる、様々な空間。その雰囲気の切り替えの大胆さが、長い滞在でも飽きが来ず、グループで滞在しても気詰まりにさせられることがない。ゆったりしたソファで時間を忘れてグラスを傾けてみたり、備え付けの骨董の湯飲みで丁寧にお茶をいれて縁側で飲むのもいい。無線LANも完備している。壁に据えられたカウンターテーブルはノートパソコンを広げるのに丁度いい。

木材や壁などの素材を愛でるのも町家暮らしの楽しみの一つ。「庵」の新旧の技のコラボレーションで生み出された和の美しさは奥が深い。玄関の艶のある靴脱ぎは新たにはめ込まれた松の古材。階段の壁はもともとここにあった竹編壁。黒光りする手すりは古い雰囲気を再現して新たに作られた。1階のエアコンの排気口を隠しているのは、古いつづらを改造して手作りされたカバーだ。

過ごす場所によって変化する居心地

天井高だけでなく、大きな窓越しに見える隣家の蔵の白壁の眺めも、2階の開放感を高めている。蔵が迫って見える風景は京都でも商家が密集していた街中ならでは。夜、この蔵はライトアップされて闇に浮かび上がる。

日本の庭や茶室は、人の視界を計算して綿密に設計されてきた。「庵」の居心地にも、そうした繊細な工夫が隠れている。1階の風呂は、窓を開ければ半露天となり、濡縁には白木の涼み席がある。腰掛けてみれば、視線の先には細長い庭がまっすぐ続く。奥まった場所にあるにもかかわらず、庭の奥行きが広い露天風呂にいるかのような視覚効果をもたらしている。

地元の人に交じって住むように楽しむ

京都の商業地の真ん中にある「庵　三坊西洞院」。界隈は付近で働く人たちが行きつけにする普段づかいの居酒屋やご飯屋さんが点在する。仕事帰りの常連客に交じってカウンターに陣取ってみれば、観光地とはまた違う素顔の京都を感じられるだろう。町家に滞在し、伝統の美意識に触れたあとは散策もぐっと楽しくなる。

町家の庭は、小さいながらも自然の情感をコンパクトに見せてくれる

旅咲　2008年夏

京町家ステイ　「京の都で、町家暮らし」

京都

京都人の永遠の憧れ
「鴨川と暮らす」愉しみ

鴨川と高瀬川。京都の中心部を流れる大小の川に挟まれた木屋町通。水運がさかんな時代に材木を積んだ船が往来したことにその名の由来があり、船員たちが憩った川岸は現在も飲食地として賑わう。「庵　和泉屋町」は、そんな歴史をしのばせる元遊入宿。

宿泊客は通りに面した格子戸を開け、石畳の通路を進む。すると、再び建物の入口の格子戸、赤敷にしてわずか10歩あまりのアプローチが、古くからの町家の住人になったような、特別のプライベート感を提供してくれる。

室内に入って目に飛び込んでくるのはワイドスクリーンのような窓に広がる鴨川の眺め。夏、鴨川べりには「床」と呼ばれる桟敷席が設けられ、東山の眺めを愛でながらの夕涼みは京の風物詩。京都人が憧れてやまないその風景を一望のもとにとらえる特等席だ。刻々と変化する雅な景観を劇場のように眺めるのは極上の時。

もう一つの目の愉しみは室内の意匠。天井がカーブを描く「船底天井」など、もともとあった個性的なディテールが残され、和洋の素材・デザインが刺激的な調和を描く。カッシーナ、ジョージ・ナカシマのデザインファニチュア。障子のようなオリジナルの照明器具、2階の和室には縁のない琉球畳を使い、どこかエキゾチックな雰囲気が漂う。

田舎に映る夕暮れを見届けたら再び格子戸を開け、木屋町通へ繰り出したい。界隈は老舗料理店、カウンターレストランなど通をうならせる粋な店が点在し、食事に、お酒にと接待で居のはしごができる。隠れ家的なバーも多く夜更かしが楽しいが、朝はぜひ早起きして、朝日に輝く東山の稜線を目に焼き付けたい。

26畳がなだらかに連なる東山をとらえる広い窓。四季の彩も美しい

鴨川の眺めを愛でる特等席

庵 和泉屋町

いおり　いずみやちょう

data

住所：京都府京都市下京区木屋町通松原上ル
アクセス：阪急河原町駅から徒歩約5分
客室数：1階居間・和室6畳、2階和室8畳、床脇窓部屋4.5畳、寝室3畳（約110㎡）
宿料：1泊40,000円（2名利用）～ 季節によって設定が異なる。6名まで
クレジットカード：不可
施設・サービス：桟敷席（1階）、シャワー（2階）、トイレ（1階・2階）
※浴衣、歯ブラシなどの備品はない

1階リビングにはカッシーナの格子とテーブルが

旅咲　2008年夏

京町家ステイ　「京の都で、町家暮らし」

町家では広いほど贅沢とされる間口(建物の幅)は3間(約7m)

凛とした祇園の風情が漂う

庵 祇園新門前

いおり　ぎおんしんもんぜん

data

住所：京都府京都市東山区新門前通大和大路東入ル
アクセス：京阪三条駅から徒歩約5分
客室数：1階(居間・板間)10畳、和室6畳、2階和室3畳、和室6畳、和室4.5畳(約140㎡)
家賃：1泊60,000円(2名利用)～季節によって設定が異なる。6名まで
施設・サービス：檜風呂・レインシャワー、トイレ(1階2か所・2階1か所)
※浴衣、歯ブラシなどの備品はない。クレジットカード：不可

京都きっての骨董の街 古き時間のただ中に浸う

「庵　祇園新門前」のある新門前通は、京都随一の骨董品街。祇園の舞妓・芸妓の舞の流派である「京舞」家元の稽古場も軒を連ねていて、はんなりと華やぐ祇園とはまた違う、凛とした空気感と格式がみなぎる界隈である。

この町家は明治時代に建てられ、茶屋として使われていたもの。カタリと格子戸を開けると、贅沢にスペースをとった広い玄関に迎えられる。はやる心を心地よくしらされるようなイントロだが、広い玄関は家の奥までを見通しにくくせない工夫でもある。

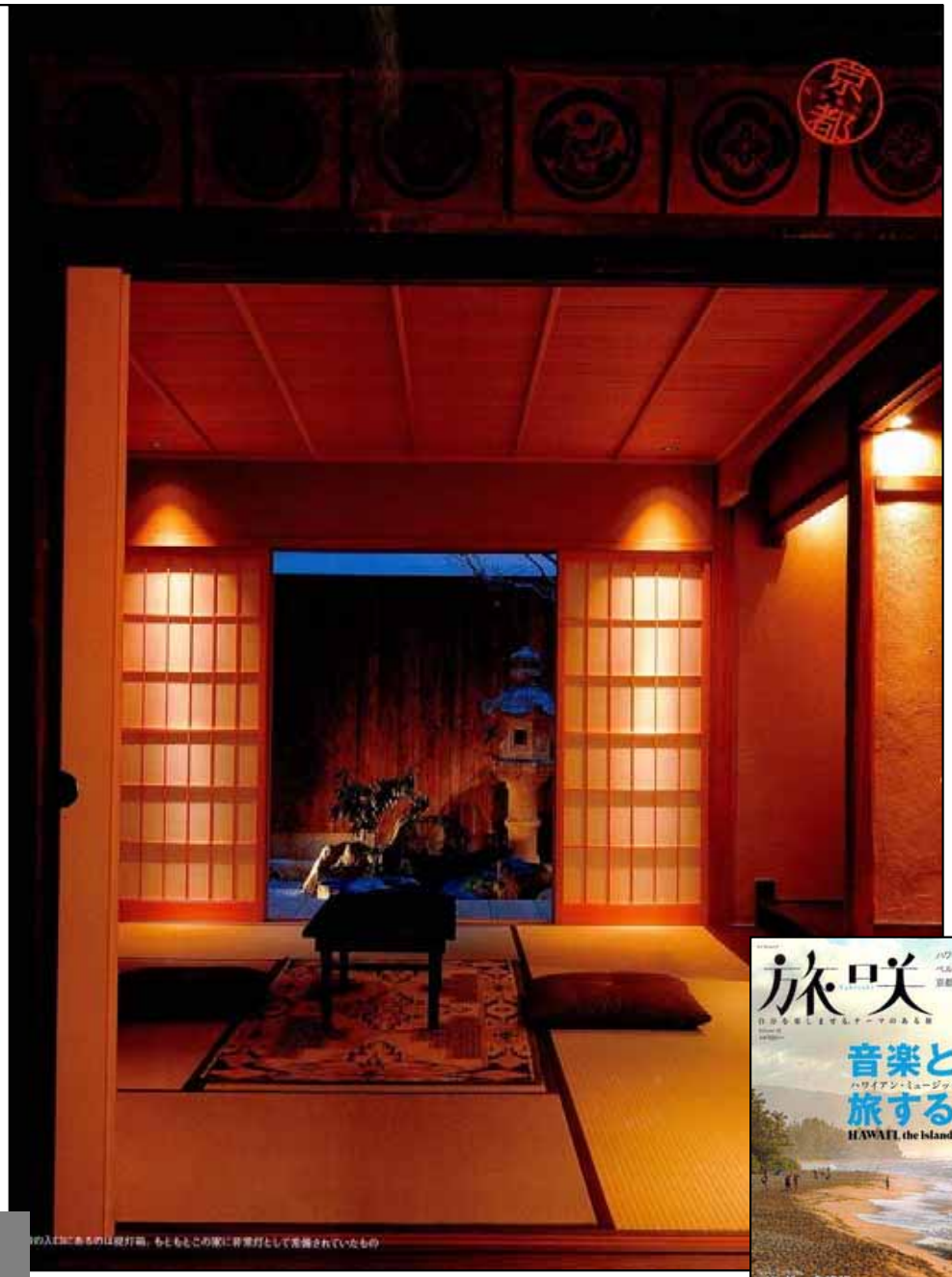
リビングに進むと、骨董調度をそのまま生かしたインテリアが楽しい。一つが提灯を納めた箱、そして「箱階段」と呼ばれるたんす状の階段。スペースを有効に使いながら、美しく見せる工夫だ。黒光りする階段は段差が急で、自然にそろそろと上品に上がることになる。つつましくも美しく暮らした京都の昔の人たちの暮らし方が体感できる。こうした調度はこの家にあったもの。いにしえの時を感じさせる一方で、内装をコーディネートしたアレックス・カールさんと師の澤田賢さんの手によるダイナミックな書が心を騒がせる。

この町家で最も印象的なくつろぎのインテリアは、「通り庭」「走り庭」と呼ばれる、玄関から奥へと続く長い空間を改装した手洗いと風呂だ。「走り庭」は煮炊きをする釜「おくどさん」を置いた場所で、天井は高い吹き抜けになっている。風呂ではガラス戸越しに坪庭の眺めが楽しめる。坪庭は薄暗い町家で鮮烈な緑と陽の光をとりこんでくれる貴重な場所。香り高い檜の風呂、肌にやさしいレインシャワーといった極上の施設に「坪庭」という目の贅沢。京都の美意識と自然とのコラボレーションを堪能する、まさしくここにしかないバスタイム。みずみずしい庭の眺めに身も心も解放すれば、街中にいながら山中にあるかのような涼感が得られる。

場所は京都を代表する夜の街・祇園。食事処は選び放題だが、あえて花街のお茶屋さん御用達の仕出しを注文し座敷でいただくのもおすすめだ。

右上／「乾坤一擲」。のるかそるかの大勝負という意味。筆致の大胆さが空間を心地よく刺激する
右下／季節の花で飾られた玄関
下／坪庭を眺めて楽しめる風呂。檜風呂も気持ちいい

P82～89の町家に関する問い合わせ先
庵
☎(075) 352-0211
FAX(075) 352-0213
www.kyoto-machiya.com



の入口にあるのは提灯箱。もともとこの家に行燈として設置されていたもの

旅咲　2008年夏

京町家ステイ　「京の都で、町家暮らし」

伝統的な技を知る

虫籠窓、坪庭、火袋……

町家を支える

「蝦の寝床」と呼ばれる特殊な間取りを持つ町家。陰影を愛する美意識も、住まいを美しくしつらえる技も、ここから始まった。コンパクトに美しく住む、いにしえの技とヒントを町家に発見。

火袋（ひぶくろ）

町家の炊事場には「おくどさん」と呼ばれる釜があり、その上は高い吹き抜けになっている。「火袋」と呼ばれる空間で、高さには防火の意味も。火袋のてっぺんには明かり取りの窓があり、高い場所から光が降り注ぐ。家の中で火を扱う大切な場所を神聖な雰囲気に包み込んでいる。

格子

繊細で情緒ある佇まいをかもす町家のシンボル・格子。その形状は採光の具合を左右するものでもある。格子には「織屋格子」「米屋格子」など職業別の形があり、一目見ればその家の商売がわかった。外から中は覗きにくいが、逆は視界良好。格子の外を歩く際は、油断なきよう、お行儀よく。

坪庭

玄関から一番奥の場所にあることが多い。日照が乏しく、暗い町家にあって、みずみずしい緑と光がほっこりと癒せてくれる。夏は室内にこもった熱を逃がし、空気の対流を生み出すため、室内に涼をもたらす役割もある。灯籠、苔、玉砂利などがコンパクトに配置されているデザインが見どころ。

虫籠窓（むしこまど）

町家独特の天井の低い二階にある土壁の窓のこと。通風や採光の役割がある。その名の由来は虫かごの網のようだから、あるいは蒸し器の空気抜けのようだからという説がある。虫籠窓の内は格子の内とはまた違った明るさで、独特の情緒が感じられる。近年急激に姿を消しつつある意匠である。

なぐり床

木の質感や美しさを、素材選びや加工の技法で最高に引き出すのが古い町家の見どころ。写真は「手斧」（ちょうな）で規則的に板をえぐって模様を付ける「なぐり」という技法。数寄屋建築によく見られるが、モダンな装飾としても用いられる。「庵　和泉屋町」では洋の家具と絶妙の調和を見せている。

提灯箱

現在も古い商家や料理屋に残されていることがある提灯箱。箱に描かれているのは多くが家紋。中におさめられている提灯にも普通、同じ家紋がついている。非常用の灯りでもあったが、提灯はお祝い事に使う用途もあったとか。収納場所は鴨居の上が多く、現在ではしつらえのアクセント。

この家にあった格子戸。手すりもつけ直されてそのままの状態にしてある

狭さを美しさに変える
京都人の住まいの知恵

町家とは本来京都の商家の職住一体のライフスタイルから生まれたもの。「蝦の寝床」と称される奥に深い構造はプライベートとパブリックな空間を分けることにも役立っている。炊事の空間もまた居住空間と分けられ、「走り庭」と呼ばれる土間または三和土に設かれている。玄関から裏へ風がすぐに走って行ける「走り庭」は夏から秋の坪庭に通じているため、夏には涼しい風もここを走る。いわば天然のエアコンなのだ。

小さな街にひしめき合うようにして暮らしてきた京都人。限られた空間をいかに合理的に、かつ美しく住まうか、という工夫はそこここのディテールにも見られる。たとえば写真の箱階段。階段下のスペースの有効利用、という発想が階段状の景観を生んだ。省スペース家具とはいえ別誂えの立派なもの。現在では骨董として珍重されるほどだ。無駄なく暮らすために工夫も手間も惜しまなかった京都人の美意識が見える。

京都

旅咲　2008年夏